

<検証結果を示す記述>
 ・進捗状況が良好である
 ・進捗状況が概ね良好である（標準）
 ・進捗状況が不十分である
 ・保留

【教育】

中期目標	中期計画／細分化した中期計画	関連する 具体の取組番号	平成 29 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント
<p><中期目標 1 > 地域に根ざす国立大学として、グローバル化社会における地域創生を担う人材の中核的育成拠点となり、高い国際通用性を有する教育課程のもと、地域一体型教育を推進し、ミッションの再定義で掲げた各分野の人材を含め、優れた高度専門職業人を育成する。</p>	<p>1-① グローバル化社会において求められる高度専門職業人等の人材の育成が学位プログラムとして担保されるよう、体系的で国際通用性を有する教育課程や個々の科目の目標等を平成 30 年度までに整備し、周知・運用する。その一環として、一体的に策定したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーについて、整合性などを継続的に見直し、必要に応じて適切な改正を行う。さらに、教育の国際通用性を検証するため、全学的な教学マネジメントのもと、教育成果の検証を含めた内部質保証、国際アドバイザーによる外部評価等を実施する。大学院課程では、第 3 期中期目標期間中に、教育学研究科および工学研究科において、機能強化のための改組と質の高い学位プログラム構築を行う。</p> <p><全学教育改革推進機構></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文科省提出年度計画について、(1)および(3)については取組がなされている。しかしながら、(1)について、教育課程における体系性と国際通用性の確保の視点から、取組の成果が提示できるか危惧される。(進捗不十分) ・(2)について、「妥当性、適切性および周知状況を検証する」ことになっているが、現状の取組ではその成果が具体的に提示できないことが危惧される。(進捗不十分) ・当該中期計画の中心となる 1-①-2 および 1-①-3 について、現状の進捗では具体的な成果が出るか危惧される。なかなか良好な進捗が難しい中期計画とは思われるが、「全学として組織的に実施している」ことが明白に提示できるよう配慮いただきたい。(進捗不十分) ・学部の 3 ポリシーの検証と見直しは行われたが、それ以外の計画は大きく進捗しているとは言えない。特に、全学としての「国際通用性を有する教育課程」が何を意味するかについての議論が進んでいない。(進捗不十分) ・遅れている国際通用性の要件設定を早急に進めていただき、各部局において国際通用性のある評価基準やナンバリングの導入、カリキュラムマップ等の作成を実施し、教育課程が体系的で国際通用性のあるものとなるよう検討を進めていただきたい。(進捗不十分)
	<p>1-①-1 カリキュラムマネジメント（2-①-2）の一環として、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに求められる要件を整理したうえで、策定済みの各ポリシーの内容及び一体性を検討、必要な改定を実施する。その後も、継続的に見直す。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>1-①-1-1 (1-①-1-1-1～5)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学部のカリキュラムアンケートで新しく作成した 3 つのポリシーについて、認知度を検証することになってはいるが、<u>AP、CP、DP との整合性等の点検についても継続的に実施していただき、その検証結果を資料として提示できるようにしていただきたい。</u>(進捗不十分) ・各ポリシーに照らして改善等された内容やその成果（授業改善、学習成果の向上、AP の実質化・明確化、進路状況）等の具体の取組、成果を資料として提示することができるとう良い。(進捗不十分) ・昨年度、全学の 3 ポリシーが策定され、各部局ではそれに合わせ 3 ポリシーの検討がなされている。さらに、大学院の 3 ポリシー策定に向けて準備がなされている。 ・3 ポリシーの HP での公開など、周知に繋げる取組がなされている。また、その周知状況の検証が具体的に計画されている。 <p>以上のように、年度計画に沿って取組が実施されている。</p> <p>・3 ポリシーの周知状況を記載願いたい。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・医学部だけではなく、全学としての成果も記載願いたい。 ・学部の 3 ポリシーに関しては、平成 28 年度中にポリシー作成作業部会において整合性の確認や見直し作業が行われたが、大学院については、なお議論が進んでいるとは言えない。「大学院構想の方向性が固まっていない」なかで、「年度内に素案を作成」できる見通しはあるのか。
	<p>1-①-2 カリキュラムマネジメント（2-①-2）の一環として、教育課程が学位プログラムとしての体系性・国際通用性を有しているか検証し、必要な改善を（各部局の改組等にもあわせて）行い、周知・運用する。その後も継続的に見直す。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>1-①-2-1 (1-①-2-1-1~7)</p> <p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際通用性の要件、カリキュラムの体系性の検証方策など、全学として定められたうえで、各部局が実施することになっているが、全学としてどの程度まで具体的に案等が策定されたのか不明瞭である。このため、年度計画であげられた「ナンバリングの導入」がなされるのか、危惧される。(進捗不十分) ・どこまで達成出来たら「教育課程の国際通用性・体系性が確保できた」と言えるのか、具体的な要件は想定できているのか。また、カリキュラム・授業評価委員会とは思われるが、全学的な検証体制は整備されているのか明らかでない。(進捗不十分) ・日本語プログラムの整備は進捗率 0%であるが、本年度後半での取組みの実施が必要である。(進捗不十分) <p>以上のことから、進捗状況からは目標の達成がなされるのか明らかでなく、進捗が不十分」とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>全学としての成果を記載願いたい。</u> ・<u>「〃の検討を進めている」と記載されているが、どの程度まで進んでいるのか、現状が分かるように記載願いたい。</u> ・「国際通用性」の要件策定等の議論はポリシー作成作業部会において開始されているようであるが、カリキュラム・授業評価委員会との関係はどうなっているのか。そもそも、カリキュラム・授業評価委員会は現時点までに一度も開催されていないのではないのか。この問題に関する議論をどこでどのように進めていくのか依然として必ずしも明確になっていない。(進捗不十分) ・学部レベルでは、3 ポリシーの検証が終了していることから、ナンバリング、カリキュラムマップ/ツリーの議論をもっと進めることができるのではないのか。(進捗不十分) ・国際通用性の要件設定を早急に進めていただき、国際通用性のある評価基準やナンバリングの導入、カリキュラムマップ等の作成を実施し、教育課程が体系的で国際通用性のあるものとなるよう検討を進めていただきたい。(進捗不十分) ・今年度の年度計画にある三つのポリシーに基づく、科目毎の目標、科目配置、科目間の関連などの妥当性・適切性の検証結果が資料として提示できよう準備を進めていただきたい。(進捗不十分)

	<p>1-①-3 教育の国際通用性を検証するため、2-①の全学的な教学マネジメントの下、教育成果の検証を含めた内部質保証、海外大学ベンチマーキング（毎年）、国際アドバイザーによる外部評価（3 年毎）等を実施する。</p> <p><副学長（教育・学生）> <副学長（国際）></p>	<p>1-①-3-1 1-①-3-2 (1-①-3-1-1～6)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1-①-3-1 について、教育の国際通用性を確保する内部質保証の取組がどの程度進んでいるのか、明らかでない（進捗率 0%とされている）。また、どのようにして検証するのか、その実施体制も明らかでない。（進捗不十分） 本年度は教育の国際通用性に焦点を当てているが、教育成果の検証については具体的な取組が予定されているのか。（進捗不十分） 1-①-3-2 について、ベンチマーキングに関しては、国際地域学部が本年 9 月に実施しており、さらに平成 30 年度でも実施が予定されている。 国際アドバイザーによる定期的教育評価が実施されている。 <p>以上のように、1-①-3-2 については概ね良好に進捗しているが、1-1-3-1 については不十分であり、全体として「進捗が不十分」とした。（進捗不十分）</p> <ul style="list-style-type: none"> 全学としての成果を記載願いたい。 ベンチマーキングによる成果も記載願いたい。 海外大学ベンチマーキング、国際アドバイザーによる外部評価は行われているが、その結果が本学における「国際通用性」や「内部質保証」に関する議論にどのように反映されているのか、必ずしも明確になっていない。（進捗不十分） 各部署等で実施する教育の国際通用性の検証結果、教育成果の検証結果を資料として提示できるようにしていただきたい。また、全学的に共通する内容・項目については、全学で同じ指標により検証されることが望ましい。
	<p>1-①-4 教育学研究科および工学研究科において、機能強化のための改組を行い、それにより質の高い学位プログラムを実現する。</p> <p><教育学研究科> <工学研究科></p>	<p>1-①-4-1 (1-①-4-1-1～2)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 改組等に向けて、着実に取組が進められていると思われる。 改組のための委員会や WG は設置されつつあるが、今後、どのようなスケジュールで議論を進めるのかを明確にすることが望ましい。 「質の高い学位プログラム」の内容を説明できるようにする必要があるのではないか。
	<p>1-①-5 グローバル化社会において求められる高度専門職業人等の育成状況を確認するため、養成人材像およびディプロマ・ポリシーで謳われた能力等（地元企業等の求める職業能力を含む）の涵養状況を検証する。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>1-①-5-1 (1-①-5-1-1～6)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「能力等の涵養状況」の指標と検証方法の策定は、各部署でそれぞれ独自に行うのか、それとも全学として策定するのかについて、意思統一はなされているのか。この点に関して、カリキュラム・授業評価委員会がどのような役割を果たすのか、確認はされているのか。（進捗不十分） 各部署では能力等の涵養状況等の検証のための調査がそれぞれなされている。しかしながら、具体の予定される取組みでは、「定められた検証方法によって」

			<p>とされているが、その点はいかがか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検証結果は教育改善に資するとされているが、関係する具体的な取組は予定されているのか。 ・涵養状況の検証は、定められた検証方法によって全学的になされるものであり、また年次推移が分かるようなものとなっているか確認願いたい。 <p>以上のように、当該計画の基盤となるアンケート調査等が各部局でなされており、計画はおおむね順調と思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>検証状況の結果の抜粋（向上度合いがわかるような）を記載願いたい。</u> ・能力の涵養状況と人材の輩出（育成）状況の検証方法について、全学または各学部でまだ明確に定められていないのではないかとと思われる。具体的な到達目標を達成したかどうかを検証するには多様な項目（教員による評価、卒業論文などの長期にわたる活動全体の評価、国家試験などの外部指標による評価など）の分析を行う必要があるのではないかと考えるが、全学で何をどのように分析していくか、ある程度統一的な方針の下で、今後の検証を進めていただきたい。
	<p>1-② 高度専門職業人として必要な知識・技能および課題探求能力などをより確実に修得させるため、教育方法が教育課程・科目の性質や目標に照らして十分な学習効果をもたらすものであるか随時検証し、より高い学習効果が期待できる方策を積極的に策定・導入する。特に、能動的学習（アクティブ・ラーニング）を取り入れた科目の割合を第3期中期目標期間中に6割以上にする。また、教員養成においては、プロジェクト型授業を発展させることなどを通して、学校現場においてアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開できる能力を育成する。</p> <p><全学教育改革推進機構></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文科省提出の年度計画には「~に照らし十分な学習効果をもたらしているかの検証及び改善を行い」としているが、該当する取組が必ずしも十分なされていないのではないか。(進捗不十分) ・同様に、「プロジェクト型授業等の実施状況を調査し」としているが、該当する取組がなされていない。(進捗不十分) ・アクティブ・ラーニングの学習効果が高いことや、知識・技能・能力等の修得状況の検証方法が、現時点では必ずしも明確になっていない。 ・<u>高度専門職業人として必要な知識・技能および課題探求能力などをより確実に修得させるための教育方法の導入状況とその効果および改善の状況を各学部・研究科で提示できるようにしていただきたい。</u>
	<p>1-②-1 教育方法が教育課程・科目の性質や目標に照らして十分な学習効果をもたらすものであるか随時検証し、より高い学習効果が期待できる方策を積極的に策定・導入する。</p> <p>特に、能動的学習（アクティブ・ラーニング）を取り入れた科目の割合を第3期中期目標期間中に6割以上にする。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>1-②-1-1 (1-②-1-1-1~6)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・K P Iであるアクティブラーニングの導入状況が昨年度よりも増加し4割となっており、順調に取組みがなされている。 ・導入による学習成果の検証が予定されているが、検証方法の策定等がなされているが、本年後半に実施していただきたい。 ・教育効果の高い授業方法としてアクティブラーニングのみが取り上げられているが、これ以外の方法について具体的に検討しなくともよいのか。 ・今年度以降も引き続き、能動的学習（アクティブ・ラーニング）を取り入れた科目の割合は増加する見込みはあるのか。FD活動以外に増加させるため

			<p>の具体的な方策はあるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニングの学習効果が高いことの検証方法を今年度内に策定するという目標を達成する必要がある。 ・各学部におけるアクティブ・ラーニング科目の現時点での比率を確認する必要があるのか。
	<p>1-②-2 教員養成においては、プロジェクト型授業を発展させることなどを通して、学校現場においてアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開できる能力を育成する。</p> <p><教育学部></p>	<p>1-②-2-1 1-②-2-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1-②-2-1 について、「～について議論している」として具体的な検討がなされているが、年度計画で示した本年度中に新教育課程の策定ができるのか今のところ不明確である。また、能力の育成状況の検証方法に関する検討が進んでいるのか明らかでない。(進捗不十分) ・1-②-2-2 について、「～を設立するための準備に入った」とされているが、全体計画としてどの程度進捗しているのか、明らかでない。(進捗不十分) <p>以上のことから、進捗状況が明白でなく、そこで「進捗状況が不十分」とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度専門職業人として必要な知識・技能および課題探求能力などをより確実に修得させるための教育方法の導入状況とその効果および改善の状況を各学部・研究科で具体的に提示できるようにしていただきたい。
	<p>1-②-3 高度専門職業人として必要な知識・技能および課題探求能力などの修得状況を検証する。</p> <p><全学教育改革推進機構></p>	<p>1-②-3-1 (1-②-3-1-1～5)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部局では随時修得状況の検証が行われている。 ・各部局の検証結果を集約し、分析の上、改善に資することが本年度中に可能なか明らかでない。 ・能力等の修得状況の検証は、あくまでも全学として組織的に実施していることを提示できるようにすることを配慮いただきたい。 ・全学としての分析結果等の概要を記載願いたい。 ・工学部について、学部新入生対象の PROG テストによる検証結果しかないか。既に実施されている内容で、高度専門職業人として必要な知識・技能および課題探求能力などについて、在学生・卒業生の修得状況を検証した取り組みや改組後改善された点とその成果等を掲載できると良い。 ・一部の学部において、能力等の修得状況の検証方法を学生の自己評価としているようであるが、それ以外の検証方法を考える必要はないのか。

<p>1-③ 学生の主体的な学びの確立に向け、修学環境を維持・向上させるとともに、学習管理システムやシラバスの活用、教員による指導の徹底等によって自主的学習活動を一層促し、第3期中期目標期間中に、学生の授業外学修時間を、現状の1.5倍以上に向上させる。また、学士課程では米国型 Grade Point Average (GPA) 制度（平成29年度までに導入）とともに、多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン（アセスメント・ポリシー）を整備し、国際通用性のある厳格な成績評価を行う。</p> <p><全学教育改革推進機構></p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画のKPIである学生の授業外学修時間の向上に係る取組み、修学環境の改善等は順調に進んでいるが、GPA導入を含め成績評価に係る取組みは以下のように必ずしも十分でないように思われる。(進捗不十分) ・特に、米国型GPAの導入およびアセスメントポリシーに策定（平成30年度より実施）は本年度中に完了していただきたい。(進捗不十分) ・GPA、アセスメント・ポリシー等に関する計画が順調に進展しているとは言えない。(進捗不十分) ・全学的に遅れている国際通用性のあるGPA制度導入の検討および多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン（アセスメント・ポリシー）の整備に向け、早急に検討を進めていただきたい。(進捗不十分)
<p>1-③-1 図書館、ICT環境、自主的学習環境、学生の交流拠点などのハード面の修学環境について、利用状況や満足度を検証しつつ、維持・向上させる。</p> <p><高等教育推進センター（学生支援部門）></p>	<p>1-③-1-1 (1-③-1-1-1～7)</p> <p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの部署で、修学環境の改善が具体的に進んでいる。 ・昨年度実施された学生生活実態調査の結果に基づき、改善が図られている ・<u>それぞれの修学環境の利用状況も把握願いたい。</u> ・<u>整備する「学生の交流拠点」とは具体的にどのようなものか。</u> ・定期的な修学環境の利用状況調査を行うとともに、年度毎に実施した修学環境等の整備状況と改善後の成果や学生の満足度を提示できるようにできると良い。
<p>1-③-2 学修管理システム（LMS）やシラバスの活用、教員による指導の徹底等によって自主的学習活動を一層促し、第3期中期目標期間中に、学生の授業外学修時間を、現状の1.5倍以上に向上させる。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>1-③-2-1 (1-③-2-1-1～6)</p> <p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の授業外学修時間を現状の1.5倍以上に向上させることに向け、様々な取組みが実施されている。 ・<u>最新の学生の授業時間外学習時間を記載願いたい。</u> ・<u>シラバスへの記載状況を記載願いたい。</u> ・<u>LMSの利用向上率を記載願いたい。</u> ・学生の授業外学修時間が現時点でどの程度伸びているかを意識・満足度調査、カリキュラム・アンケート、各学部の学生アンケート等で確認する必要がある。 ・学生生活実態調査等から授業外学習時間を導き出すものと思うが、授業外学習時間の定義が曖昧なままであると、少ない時間数しか回答されない可能性があるように感じるため、学生に授業外学習時間の定義が何を指しているのかを明確に伝えた上で回答を得るようにし、できるだけ明確な調査結果となるように工夫できると良い。

	<p>1-③-3 学士課程では米国型 Grade Point Average (GPA) 制度（平成 29 年度までに導入）とともに、多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン（アセスメント・ポリシー）を整備し、国際通用性のある厳格な成績評価を行う。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>1-③-3-1 (1-③-3-1-1~6)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 29 年度までに米国型 GPA を導入することとしているが、国際地域学部の導入結果の検証はなされているのか明らかでない。(進捗不十分) 「米国型 GPA の導入について検討するための体制整備を進めている」とされているが、学部によって温度差が見られる等、平成 30 年度実施が可能なのか危惧される。(進捗不十分) 本年度は「策定されたアセスメントポリシーに則り、成績評価方法等の妥当性を検証する」としている。現在作成に向けた検討が進められているとは思われるが、具体の予定された取組が達成できるのか危惧される。 <p>以上のことから、進捗は必ずしも良好とはいえず、「進捗は不十分」とした</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体の進捗率が 30%とされているが、進捗率が率い場合には達成に向けた予定等を記載願いたい。 「米国型 GPA 制度について、国際地域学部における導入成果を検証し、導入について検討するための体制整備を進めている」とあるが、実際には検証も体制整備もほとんど進んでいないのではないか。「平成 30 年度から全学的に学士課程において実施する」という目標が実現できる見通しがあるのか、再度確認する必要がある。(進捗不十分) 全学教育改革推進機構は「各学部におけるアセスメント・ポリシーに則った成績評価方法などの検証状況を確認する」としているが、議論はこれからとされている。また、学部側ではアセスメント・ポリシーに関する記述がなかったり、「全学アセスメント・ポリシーに則り、成績評価方法等の妥当性を検証する」としている学部があり、認識が一致していないのではないか。この計画の議論の進め方は、全学的に確認されているのか。(進捗不十分) 全学的に遅れている国際通用性のある GPA 制度導入の検討および多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン（アセスメント・ポリシー）の整備に向け、早急に検討を進めていただきたい。(進捗不十分)
	<p>1-④ 教員養成に係る学部、教職大学院と附属学園の三位一体改革事業のもと構築した体制を有効に機能させ、附属学園の教員研修学校化促進、学校拠点方式を基軸とする管理職養成教育の実施、他大学と連携した教職大学院の共同大学院化や国内外のネットワークの拡大など、教育制度改革を見据えた先進的な教員養成・教師教育を一層推進するモデルを示す。</p> <p><教育学研究科></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度の年度計画に掲載されている市町教育委員会および福井県教育委員会に出向し説明会、および成果報告会を実施することになっているが、実施されたのか、または予定されているのが不明であるため、実績として記載できると良い。 年度計画に沿って連合大学院の設置など、良好な進捗が見られる。 文科省提出年度計画に挙げられている「現職教員の教職大学院入学を支援する体制を構築する」に係る取組みは実施されているのか。

	1-④-1 教員養成に係る三位一体改革事業のもと構築した体制を有効に機能させ、附属学園の教員研修学校化促進、学校拠点方式を基軸とする管理職養成教育の実施 ＜教職大学院＞	1-④-1-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・具体の予定された取組に「地域拠点方式の運営とその見直しを行う」をあげているが、相当する取組はなされたのか明らかでない。 ・具体の予定された取組に「義務教育学校の運営方法について研究する」をあげているが、相当する取組はなされたのか明らかでない。 ・入学者数などから、取組は概ね良好に進捗しているものと思われるが、 <u>次回は上記の取組状況・成果を記載願いたい。</u> ・ <u>公表する機会の実施回数を記載願いたい。</u>
	1-④-2 他大学と連携した教職大学院の共同大学院化 ＜教職大学院＞	1-④-2-1	(検証結果) 進捗状況が良好である (コメント) ・設置の認可が許可されたうえ、実際に設置されており、今後の成果が期待される。 ・引き続き、他大学との調整および具体的な組織化状況（学生の受入態勢等）について、資料が提示できるように進めていただきたい。
	1-④-3 国内外のネットワークの拡大 ＜教職大学院＞	1-④-3-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・順調に関連する取組が進められており、数値指標の増加を期待したい。 ・ <u>それぞれの年度末の数値を記載願いたい。</u>
	1-④-4 教育制度改革を見据えた先進的な教員養成・教師教育を一層推進するモデルを示す。 ＜教職大学院＞	1-④-4-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント)
1-⑤	子どものこころの発達研究センターと教職大学院および教育学部は、子どものこころの発達に関する医教連携の教育研究体制を構築し、本学で蓄積中の先端的脳科学・精神医学および先駆的教師教育研究の知見を活かし、発達障害についての教員養成カリキュラムの改善や、附属学園における医教協働による子ども支援体制の整備、いじめ対策等生徒指導推進事業の推進、インクルーシブ教育の向上を図るための養護教諭研修システムの先進的モデル提示を行う。 ＜教育学研究科＞		(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・細分化された中期計画については、それぞれの取組が実施されており、概ね良好な進捗と思われる。しかしながら、文科省提出年度計画では、「講義及び学生指導を行う」、「研修を実施する」があげられており、関連する取組が実際になされているのか明らかでない。（進捗不十分） ・各項目の本年度の具体的な数値での実績や改善状況が資料提示できるように進めていただきたい。

<p>1-⑤-1 子どものこころの発達研究センターと教職大学院および教育学部は、子どものこころの発達に関する医教連携の教育研究体制を構築 <教職大学院></p>	<p>1-⑤-1-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>話題提供にセンター所員が参加しているが、具体的な人数、回数を記載願いたい。</u> ・ <u>話題提供したことによる具体的な成果を記載願いたい。</u> ・ 当該中期計画では「医教連携の教育研究体制を構築」としているが、目で見えるような体制の構築に向けた取組みは進んでいるのか。 ・ 医教連携での授業の実績及び学校訪問参加の状況について資料提示ができるように進めていただきたい。
<p>1-⑤-2 先端的脳科学・精神医学および先駆的教師教育研究の知見を活かし、発達障害についての教員養成カリキュラムの改善 <教職大学院></p>	<p>1-⑤-2-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体の予定された取組では「カリキュラム改定を実施する」としているが、本年度中に実施できるのか明らかでない。 ・ カリキュラムの改善状況と医教連携での授業実施状況（医学部教員の担当状況）について資料が提示できるように進めていただきたい。
<p>1-⑤-3 附属学園における医教協働による子ども支援体制の整備 <教職大学院></p>	<p>1-⑤-3-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の実施状況や教育相談の実施状況について資料が提示できるように進めていただきたい。 ・ 中期計画に沿って、特別支援教育コーディネーターを採用し、支援活動を実施している。しかしながら、具体の予定された取組として記載された「特別支援コーディネーター研修」とは具体的にどのような研修なのか存じ上げていないので（コーディネーターによる研修、コーディネーターに対する研究?）、進捗状況をできない。 ・ <u>特別支援コーディネーター研修について、具体的な内容等についても言及し、そのうえで取組状況・成果を記載願いたい。</u>
<p>1-⑤-4 いじめ対策等生徒指導推進事業の推進 <子どものこころの発達研究センター></p>	<p>1-⑤-4-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度計画に沿った取り組みが順調になされている。 ・ <u>2) について、話題・情報提供の具体的な回数等、定量的な記載も願いたい。さらに、その具体的な成果も記載願いたい。</u>

	<p>1-⑤-5 インクルーシブ教育の向上を図るための養護教諭研修システムの先進的モデル提示 <教職大学院></p>	<p>1-⑤-5-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修システムはいつまでに構築される予定なのか、また本年度中にどこまで詰めるのかなど、記載願いたい。 ・今年度末までに医教連携した養護教諭の研修は実施できるのか不明なので、記載があると良い。
	<p>1-⑥ 国際地域学部を中心に、地域の創生を担い、グローバル化する社会の発展に寄与できる人材を育成するため、これまでの「スーパーグローバル大学等事業 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」、「地（知）の拠点整備事業」での実績を活かし、地域の企業や自治体の協力を得て行う課題探求プロジェクトを中心とした探求型能動的学修や、海外留学とそれに向け徹底的に英語を学ぶ教育課程を編成し、国際水準での教育を実施する。さらに、その成果を検証しつつ、他部局へ随時適用する。 <全学教育改革推進機構> <国際地域学部></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1-⑥-1 および1-⑥-2 について、予定された取組が必ずしもなされていない。 ・文科省提出年度計画では「日本語教育機能を語学センターに統合する等、組織整備を進める」をあげているが、相当する取組がなされていない。(進捗不十分) ・国際地域学部での実績・成果等の検証を進めていただき、特に探求型能動的学習の取組については、他部局へも拡大する必要があるため今後、検討を進めていただきたい。
	<p>1-⑥-1 国際地域学部を中心に、これまでの「スーパーグローバル大学等事業 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」、「地（知）の拠点整備事業」での実績を活かし、地域の企業や自治体の協力を得て行う課題探求プロジェクトを中心とした探求型能動的学修や、海外留学とそれに向け徹底的に英語を学ぶ教育課程を編成し、国際水準での教育を実施する。 <国際地域学部></p>	<p>1-⑥-1-1 (1-⑥-1-1-1～4)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度計画1) について、学術交流協定の拡大が進むなど、順調に進捗している。しかしながら、 <ul style="list-style-type: none"> ・2) について、課題探究プロジェクトは2年次で開始されたのか、明らかでない。 ・3) について、一部の学部で点検・評価がなされているが、全学的な点検・評価が必要である。評価結果の抜粋も記載願いたい。 ・4) 具体的な検討がどのように進められているのか明白でなく、また「一部実施」が実現できるか危惧される。 以上のことから、「進捗不十分」とした。(進捗不十分) ・「検討を進めている」について、ある程度の検討内容に記載願いたい。 ・国際地域学部における学術交流協定校拡大のほとんどが英語圏以外の諸国となっているが、学部の理念と一致しているのか。 ・「初年次からの徹底した英語教育を点検・評価する」となっているが、実際にはどのように行われているのかを確認する必要がある。 ・地域課題プロジェクトについての企業や自治体からの評価と点検もどのように行われているか確認する必要がある。

	<p>1-⑥-2 その成果を検証しつつ、他部局へ随時適用する。 <全学教育改革推進機構> <国際地域学部></p>	<p>1-⑥-2-1 (1-⑥-2-1-1～5)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際地域学部では年度計画に沿った取組が進められているが、この細分化した中期計画では「他部局へ随時適用する」がポイントであるが、それらについての進捗が不十分である。(進捗不十分) ・各部局では「全学の取組方針に準じ」としているが、全学の方針は具体的に策定されているのか。(進捗不十分) ・「国際地域学部の取組を参考に」としているが、どのような点を参考としたかも提示できるようにしていただきたい。(進捗不十分) ・<u>1-⑥-2-1 について、「学外の組織と連携した」に関する実績を記載願いたい。</u> ・国際地域学部の実績と成果は記載されているが、「他部局へ随時適用する」ためには「成果の検証」が必要である。 ・地域の企業や自治体等の協力を得て行う探求型能動的学修は、国際地域学部以外の部局で、これまでの取組みから拡大して実施されたもの。若しくは検討されているものはないか。
	<p>1-⑦ 教師、医療人、技術者等の社会人の学び直しを支援するため、学びやすい教育システム等を整備し、第2期中期目標期間末と比較して、社会人の学びに対応したプログラムの科目数や受講者数などを増加させる。 <COC 推進機構></p> <p>1-⑦-1 「地域の理科教育の核となるコアサイエンスティチャー(CST)養成プログラム」、「緊急被ばく医療に強い救急総合医養成」、「産業現場に即応する実践道場」、「履修証明プログラム」などにおいて、社会人が学びやすい教育システムの整備を行い、教師、医療人、技術者等の社会人の学び直しを支援する。また、関係者の意見聴取や満足度の検証を行うとともに、社会人の学びに対応したプログラムの科目数や受講者数などを第2期中期目標期間末よりも増加させる。 <各部局></p>	<p>1-⑦-1-1 (1-⑦-1-1-1～5)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのプログラムにおいて、社会人の学び直し教育が進められているが、受講者数は前年に比べ増加しているのか、明らかでない。<u>前年度との比較を記載願いたい。</u>(進捗不十分) ・具体の予定された取組では「実施状況の調査・分析」、「満足度やニーズの検証」、「社会ニーズの調査」がなされることとなっているが、一部実施されているものもあるが、全体として該当する取組がなされていない。特に、組織的な対応がなされているのか、明らかでなく、全学としてそれぞれのプログラム担当にどのような点で調査分析するのか指示すべきではないか。(進捗不十分) ・平成 30 年度を前倒しとした「社会ニーズの調査」は全学的に実施してほしい。(進捗不十分) ・<u>分析結果等の概要を記載願いたい。</u> ・<u>取り纏め部署では、1-⑦-1-1-1～5 に記載された各部局での取組等を集約し、全学としての状況を記載願いたい。</u> ・「科目数や受講者数などを第2期中期目標期間末よりも増加させる」という目標の達成見込みを確認する必要がある。

<p><中期目標 2> グローバル高度専門職業人および地域活性化の中核となる人材の育成拠点として、教育の国際通用性の確保・向上や地域一体型教育の先導的推進に係る取組みなど、質の高い教育を実現するための教育実施体制を整備し運用する。</p>	<p>2-① 質の高い教育を実現するため、平成 28 年度に再編する教員組織・教育組織分離体制を有効に活用し、全学教育改革推進機構に設けたカリキュラム・授業評価委員会を中心として、カリキュラム・マネジメントを行う。さらに、Institutional Research(IR)機能の活用を含め、教育の質保証システムを整備・運用するとともに、国際アドバイザー等による本学の教育全般の「国際的な水準」の検証を行い、教育の国際通用性や学位の質を保証する。 <全学教育改革推進機構></p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育に係る中期計画の中でも、進捗・成果が難しいものであることは十分理解されるが、具体的な進捗や成果があまり見えてこない。特に、この計画の根幹である「教育の質保証システム」の構築を実現してほしい。(進捗不十分) ・文科省提出年度計画（1）について、国際水準の現状の検証に関する取組がなされていない。(進捗不十分) ・同様に（3）について、該当する取組がなされているのか明らかでない。特に、「有効に活用した」ことを示せるようにしていただきたい。(進捗不十分) ・この項目全体において、カリキュラム・授業評価委員会が中心的な役割を果たすことになっているが、実際に機能しているのか疑わしく、検討体制を抜本的に見直すべきではないか。(進捗不十分) ・今後、さらに教育の質保証システムの整備に向け、各会議において検討を進めていただき、カリキュラム・授業評価委員会を中心としたカリキュラム・マネジメントの実績や整備された教育の質保証システムの運用実績が提示できるように進めていただきたい。(進捗不十分)
	<p>2-①-1 全学的な教学マネジメントのもと、Institutional Research(IR)機能の活用を含め、教育の質保証システムを整備する。 <カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>2-①-1-1 (2-①-1-1-1～3)</p> <p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗率 10%が示すように、本年度中に「教育の質保証システム」が整備されるのか、危惧される。(進捗不十分) ・8要素を検証し、不十分な部分を整備するとしているが、具体的な検証が進んでいるのか明らかでない。(進捗不十分) ・当該システムの整備は容易でないことは十分理解できるが、是非整備を進めていただきたい。(進捗不十分) ・現時点で進捗がすべて 0%となっている原因の一つは、「教育の質保証システム」が具体的に何を意味するのかについて十分な議論と認識が欠如しており、全学的なコンセンサスが形成されていないことにあるのではないか。(進捗不十分) ・今後、教育の質保証システムの整備に向け、各会議において検討を進めていただきたい。(進捗不十分)
	<p>2-①-2 1. で整備した教育の質保証システムを運用して教育改善に活かす（PDC A）。その一環として、全学教育改革推進機構に設けたカリキュラム・授業評価委員会を中心として、カリキュラム・マネジメントを行う。その結果質の高い教育が実現されるよう、平成 28 年度に発足する教員組織・教育組織分離体制を有効に活用する。 <カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>2-①-2-1 (2-①-2-1-1～3)</p> <p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教育の質向上に係る取組みを進めており」とされているが、<u>具体的な取組内容の概要を記載願いたい</u>。(進捗不十分) ・昨年度策定されたカリキュラムマネジメントの方策に沿って、取組状況を検証するとしているが、本年後半に実施できるのか危惧される。(進捗不十分)

			<ul style="list-style-type: none"> 各学部の取り組みには一定の進捗が見られるが、その中でカリキュラム・授業評価委員会がどのような役割を果たしているのか不明である。（進捗不十分）
2-①-3	<p>1. の一環として、国際アドバイザー等により、本学の教育全般について「国際的な水準」の検証を行う。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会></p>	2-①-3-1 (2-①-3-1-1～3)	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際アドバイザーによる教育評価がなされた。<u>それに係る改善事例があれば記載願いたい。</u> 「国際的な水準」をどのようにして維持・向上させるのか、具体的な方策等は策定されているのか明らかでない。 「国際的な水準の維持・向上」の成果をどのように提示するのか、検討いただきたい。 今後、検証の結果、国際的な水準であることがわかる資料や各教育評価に基づく改善状況のわかる資料が提示できるように進めていただきたい。 国際アドバイザーによる評価は実施されたが、「国際的な水準」に照らして本学の教育全般がどのような状況にあるのかについての検証が行われ、十分なフィードバックがなされているかどうか不明である。
2-②	<p>学生の社会的・職業的自立に向けた教育実施体制整備の一環として、自治体、企業、教育・医療機関等と交流・連携を深め、インターンシップ等に関わる学内組織の整理統合を行うとともに、インターンシップ等も含めた実践的なキャリア教育を行う取組みを一層推進することにより、学外関係者からの「本学卒業（修了）生に対する高い評価」を維持する。このため、学生の就職先関係者や本学既卒者への意見聴取の継続的实施等によって組織的に検証を行う。</p> <p><キャリアセンター></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 文科省提出年度計画に挙げられている「実施体制の整備」は本年度中に達成できるのか明らかでない。 本学の既卒者に対する意見聴取することとされているが、実施されているのか明らかでない。 能力等の涵養状況が向上しているのかを示す資料を記載願いたい。 <u>インターンシップ等実施状況及びキャリア支援プログラム実施状況とその効果がわかる資料が提示できるようにしていただきたい。</u> <u>インターンシップが単位として認定されるものについては、単位修得状況がわかる資料が提示できるようにしていただきたい。</u>
2-②-1	<p>学生の社会的・職業的自立に向けた教育実施体制整備の一環として、自治体、企業、教育・医療機関等と交流・連携を深め、インターンシップ等に関わる学内組織の整理統合を行うとともに、インターンシップ等も含めた実践的なキャリア教育を行う取組みを一層推進することにより、学外関係者からの「本学卒業（修了）生に対する高い評価」を維持する。このため、学生の就職先関係者や本学既卒者への意見聴取の継続的实施等によって組織的に検証を行う。</p> <p><キャリアセンター></p>	2-②-1-1 (2-②-1-1-1～6)	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの部局で、其々の特性に合ったインターンシップがなされているが、今後、その成果をどのように提示できるか検討いただきたい。 キャリアセンターを中心に様々な検討がなされているようであるが、<u>具体的な検討内容も記載願いたい。</u> 具体の予定された取組1)の「合理化」に関する対応はなされたのか明らか

			でない。 <ul style="list-style-type: none"> 2-②-1-1-1～6に記載されるように、其々の部局での取組を取り纏め、全学としての状況を記載願いたい。 THE の評価指標では「インターンシップ・プログラム利用者数に、特定の資格取得（教育実習、看護実習、臨床実習など）を含むインターンシップは含まれる」となっている。そこで、教育学部、医学部で行っているこれら実習もインターンシップに含めてください。
	2-②-2 学生の就職先関係者や本学既卒者への意見聴取の継続的实施等により、本学卒業（修了）生が社会的・職業的自立に必要な資質・能力等を備えているか、組織的に検証を行う。 <キャリアセンター>	2-②-2-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) <ul style="list-style-type: none"> 年度計画に沿った取り組みがなされている。 調査結果の概要、その反映状況を記載願いたい。 キャリアセンターで実施している学生の就職先へのアンケートには教員が含まれていないため、教育学部でその点に対処するためのアンケートが継続的に実施されているかどうかを確認する必要がある。
	2-③ 大学のグローバル化を促進させる教育実施体制整備の一環として、シラバスや履修単位数制限（CAP 制）の見直し、ナンバリングや柔軟な学事暦の導入等によって、国際的に通用する教務システムを整備する。特に国際地域学部はこれらの取組みを先導して実施し、その成果を検証しつつ、他部局へ随時適用する。 <全学教育改革推進機構> <国際地域学部>		(検証結果) 進捗状況が不十分である (コメント) <ul style="list-style-type: none"> 以下の細分化した中期計画で記載したように、進捗状況が明らかでなく、目標の達成を推し量ることができない。(進捗不十分) 文科省提出年度計画にもあげられているように、国際地域学部の成果を全学的に検証することが前提となっている、これは十分になされていないのではないか。(進捗不十分) 「国際的に通用する教務システムの要件」に関する全学的な議論が依然として進んでいない。(進捗不十分) 全体的に検討が遅れている国際的に通用する教務システムの整備の検討を進めていただき、各部局で整備・運用後の成果が出せるようお願いしたい。
	2-③-1 カリキュラム・マネジメント（2-①-2）の一環として、シラバスや履修単位数制限（CAP 制）の見直し、ナンバリングや柔軟な学事暦の導入等を行い、(1-③-3 などの取組とあわせ) 国際的に通用する教務システムを整備する。 <カリキュラム・授業評価委員会> <国際地域学部>	2-③-1-1 (2-③-1-1-1～6)	(検証結果) 進捗状況が不十分である (コメント) <ul style="list-style-type: none"> 年度計画で予定された取組は殆どが年度末に確認、導入予定とされているが、其々の実現可能性が明らかでない。(進捗不十分) 各部局で実施されている取組の状況を年度末に確認することとしているが、不備があった場合は年度内には改善できないことになるのではないかと。(進捗不十分) 以上のことから、進捗状況が把握できないので「不十分」とした。 ナンバリングに関する全学レベルでの議論の進捗状況が不明である。 国際的に通用する教務システムが整備されていることがわかる資料と整備さ

				<p>れたことによる成果を提示できるように検討を進めていただきたい。成果として、外国人留学生受け入れ推移、外国語授業科目数、外国語検定試験の結果、国際的進路の推移などで変容が測れると良い。</p>
		<p>2-③-2 国際地域学部はこれらの取組みを先導して実施し、その成果を検証しつつ、他部局へ随時適用する。 <カリキュラム・授業評価委員会> <国際地域学部></p>	<p>2-③-2-1 (2-③-2-1-1~6)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画の機関である「国際地域学部での運用状況やその成果」が十分検証されているのか、明らかでない。(進捗不十分) ・その検証に基づき、他部局でどのように適用がなされたのかも明らかでない以上ことから、進捗状況が把握できないので「不十分」とした。 ・国際地域学部における成果の検証が未だ開始されていないため、他部局への随時適用にはほど遠い状況にある。(進捗不十分) ・今後、国際的に通用する教務システムの整備・運用による成果を各部局でも活用できるよう検証を進めていただき、学内で共有できるよう進めていただきたい。
<p><中期目標 3> 学生と教職員の良好な関係のもと、ステークホルダーの満足度が高い修学支援、生活支援、留学支援等とともに、高い実績を持つ就職支援を推進する。</p>	<p>3-① 組織的な連携体制のもと、修学面、生活面、就職面などの総合的できめ細かい学生支援体制を整備・運用し、ステークホルダーの高い満足度を維持する。このため、学生等への意見聴取の継続的实施等によって組織的に検証を行う。特に、就職先から高く評価されている就職支援体制を基盤として、積極的な進路相談や就職支援を一層推進し、概ね 96%前後の高い就職率を維持する。 <高等教育推進センター（学生支援部門）></p>	<p>3-①-1 組織的な連携体制のもと、修学面、生活面、就職面などの総合的できめ細かい学生支援体制を整備・運用する <高等教育推進センター（学生支援部門）></p>	<p>3-①-1-1 (3-①-1-1-1~8)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係者の満足度を常に検証いただきたい。 ・学生等からの高い満足度を得るために、学生生活実態調査の実施後から改善までをもう少し早期に実現できるようにし、学生等からの意見により改善された内容を学生等へ公開することで、さらに学生からの満足度が向上できるようにできると良い。
				<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学基本方針のもと、其々の部署で学生支援に係る取組みが、進捗度には差があるものの、実施されている。全学として、どの程度整備されたのか、具体的な把握を望みたい。 ・現時点での進捗率が低い部局が見受けられることから、年度末に向けて取り組みを加速することが期待される。 ・修学環境支援の具体の取組みが進んでいない部局については、引き続き、成果が得られるよう取組みを進めていただきたい。
		<p>3-①-2 学生支援体制について学生等への意見聴取を継続的に行い、組織的に検証を行う。 <高等教育推進センター（学生支援部門）></p>	<p>3-①-2-1 (3-①-2-1-1~5)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度実施された調査結果に基づき、検討・改善が図られている。なお、各部局では具体的な対応が、濃淡はあるが、進められている。しかしながら、

			<p><u>今回の調査結果による実施体制の確立への寄与を記載願いたい。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現時点での進捗率が低い部局が見受けられることから、年度末に向けて取り組みを加速することが期待される。 ・学生等からの意見聴取から高等教育推進センターからの提言事項の報告や各部局への課題等への対応依頼がもう少し早く行えると組織的な検証や改善がスムーズに反映されて良いのですが。また、学生からのアンケート聴取から改善・還元されたことを学生等に公表できないままになってしまうのではないかな。
	3-①-3 積極的な進路相談や就職支援を一層推進し、概ね 96%前後の高い就職率を維持するとともに、就職先での高い評価を得る。 ＜キャリアセンター＞	3-①-3-1	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p>
	3-② 在学生の留学や外国人留学生の受入を積極的に進めるために、留学の情報提供、修学・生活・就職にわたる総合的できめ細かい支援を行う。そのために、留学関係事務の改善や留学生受入れの入試改革などを行うとともに、留学生用住居を拡大する。 ＜国際センター運営委員会＞		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対応する K P I をその都度記載願いたい。 ・教育学部・教育学研究科における進捗状況が記載されていないが、3-②については同学部・研究科は実施対象外と理解してよいか。 ・受入・派遣とも学生支援体制の整備・運用状況がわかる資料が提示できるようにしていただきたい。 ・受入・派遣とも入試・留学生活・就職等の改善状況及びその効果がわかる資料が提示できるようにしていただきたい。
	3-②-1 外国人留学生の受入を積極的に進めるため以下の取組を実施する。 (1)短期留学生、正規留学生とリクルートする対象を明確にした上で、それぞれのグループに対しどのような学術プログラムが提供されているか、その特徴と強み、なぜ福井大学で学ぶべきのかなど、情報提供を行う。 (2)修学、生活、就職に及ぶ総合的且つきめ細かい支援体制を整備、運用する。同時に、国際通用性のある入試制度の導入や、留学生用住居の拡充、就職など、それぞれの支援体制の整備、充実を図る。 ＜国際センター運営委員会＞	3-②-1-1 (3-②-1-1-1～6)	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>受入留学生数、その増加状況を記載願いたい。</u> ・具体の予定された取組が順調に実施されており、成果もあがっている。 ・年度計画 1) に記載された「支援体制を整備し、基本計画を策定する」に対応する取組・成果が明らかでない。
	3-②-2 在学生の海外留学を積極的に進めるために、学術交流協定校の学術プログラム、留学費用、課外活動、施設、その他のサービス等の情報提供や、留学前準備、留学中の履修・生活・危機管理など支援体制を充実させる。 ＜国際センター運営委員会＞	3-②-2-1 (3-②-2-1-1～6)	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際センター、国際課を中心として、関係する様々な取組みが進んでいる。具体的な取組例が記載されており、その進捗が容易に判断できる。 ・年度計画には「基本計画を策定する」ことがあげられているが、相当する取組はなされているのか明らかでない。 ・<u>在学生の留学数、その増加状況を記載願いたい。</u> ・全体の【具体的取組】には、<u>国際地域学部の派遣学生への支援体制の整備状況、運用状況等について、現在準備を進めているところだと思いが、記載が</u>

				ないため、 <u>今後、具体の取組や実績として掲載できるようにしていただきたい。</u>
<p><中期目標 4> 多様な志願者や社会ニーズ等に適切に対応するとともに、新たな高大接続入試の創出に繋がる高大連携等を推進し、知識・能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する選抜方法により、多様な学生の受入れを進める。</p>	<p>4-① 一体的な 3 ポリシーのもと、達成度テスト（仮称）、国際バカロレア資格等の活用を含め、多様な志願者に対し知識・能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定できる選抜方法を策定し、適宜導入する。さらに、新たな高大連携のあり方およびそこの学習成果に基づく多様な能力を多面的・総合的に評価する手法の研究開発を行うとともに、それを通して高大接続入試、特に個別選抜の改善に資する。国際地域学部では、高大接続 AO 入試を平成 29 年度から実施するとともに、他学部での導入を検討する。 <u><入学試験委員会></u></p>		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取組内容等が詳細に記載されており、進捗の検証が容易である。 ・確認であるが、文科省提出年度計画に記載した「プロジェクトは 3 回以上開催」されたのか、<u>現時点での回数を記載願いたい。開催されていない場合、本年度中に開催数をクリアしていただきたい。</u> ・国立大学共同次世代型入試開発会議は開催されたのか明らかでない。 ・概算要求事項の実施内容のさらなる充実と高大連携入試への活用の実績をあげるとともに、現在検討中の新たな入試に 3 ポリシーを念頭においた高大接続型入試が導入できるよう引き続き検討を進め、実績があげられるように進めていただきたい。 	
		<p>4-①-1 達成度テスト（仮称）や大学入学希望者学力評価テスト（仮称）、国際バカロレア資格等の活用を含め、多様な志願者に対し知識・能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定できる選抜方法を策定し、適宜導入する。 <u><入学試験委員会></u></p>	<p>4-①-1-1 (4-①-1-1-1～5)</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取組が順調に進捗している。 ・一部 F D がなされているとのことであるが、本年度中にさらに F D 活動を行うのか明らかでない。 ・進捗率 0% の部局が見受けられるが、問題なしと考えてよいか。 ・外部試験や国際バカロレア等を活用した選抜方法の導入については検討が進められているか。 ・各年度で導入された多面的・総合的に評価判定できる選抜方法の策定・<u>導入状況を資料として提示できるようにしていただきたい。</u>
		<p>4-①-2 新たな高大連携のあり方を検討・実施し、高大連携教育によって生徒が得た学習成果や多様な能力をルーブリック等により多面的・総合的に評価する手法の研究開発を行う。 <u><入学試験委員会></u></p>	<p>4-①-2-1</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取組が順調に進捗している。 ・<u>プロジェクト数や参加者数など、定量的な指標とその増加状況を記載願いたい。</u> ・各年度で取り組んだ高大連携によるプロジェクトによる評価の信頼性・妥当性についての検証結果資料、プロジェクトの実績が高大連携入試や高校または大学での授業等の改善につながった実績が資料として提示できると良い。

	<p>4-①-3 2. で開発した評価手法を取り入れた高大接続入試（特に、個別選抜）を実施する。特に、国際地域学部では、高大接続 AO 入試を平成 29 年度から実施するとともに、他学部でもその特性に合わせて導入を検討する。 ＜入学試験委員会＞</p>	<p>4-①-3-1</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、<u>国際地域学部以外の部局での高大接続入試についても検討を進めていただき、高大接続型入試の実績としてあげられるようにしていただきたい。</u> 国際地域学部で高大接続 AO 入試が実施されている。さらに改善が図られている。
	<p>4-② 志願者・入学者の状況やアドミッション・ポリシーとの整合性、社会ニーズ等を随時点検し、選抜方法や教育課程の継続的改善を行うとともに、必要に応じて入学定員の見直しを行う。さらに課題解決に主体的・協働的に取り組む高大連携の教育を発展させるとともに、初年次教育を含めた高大接続や積極的な入試広報活動等によって、県内出身者を含め、アドミッション・ポリシーに沿った多様な学生を確保する。 ＜入学試験委員会＞</p>		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な取組内容等が詳細に記載されており、進捗の検証が容易である。 文科省提出年度計画に「選抜方法や入学定員の適切さの検証」をあげているが、その検証結果が提示できるように取りまとめいただきたい。 様々な検証結果が求められることになるが、全学的な検証は誰が行うのかを含め、可能なものについては、全学で統一的な指標で検証結果をまとめられるように必要項目を設定していただき、各部局において検証を進めていただけるようにしていただきたい。
	<p>4-②-1 志願者や入学者の状況、選抜方法や教育課程とアドミッション・ポリシーとの整合性、社会ニーズ等を随時点検し、選抜方法や教育課程の継続的改善を行う。 ＜入学試験委員会＞</p>	<p>4-②-1-1 (4-②-1-1-1～5)</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度計画では、「アドミッションポリシーの適合性」を検証するとしているが、相当する取組がなされているのか明らかでない。 進捗率 0%の部局が見受けられるが、問題なしと考えてよいか。 各学部の特性があり難しいとは思いますが、追跡調査、選抜方法や教育課程とアドミッション・ポリシーとの整合性などの検証結果については、できるだけ共通的な項目を設定し、各学部での検証が全学的にまとまったものとなるよう統一的な指標で検証結果をまとめていただき、<u>全学的な検証結果と各学部独自の検証結果が出せるようにし、資料として提示できるようにしていただきたい。</u>
	<p>4-②-2 必要に応じて入学定員の見直しを行う。 ＜入学試験委員会＞</p>	<p>4-②-2-1 (4-②-2-1-1～4)</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 一部部局で、具体的な定員の適正化が図られている。 進捗率 0%の部局が見受けられるが、問題なしと考えてよいか。

	<p>4-②-3 課題解決に主体的・協働的に取り組む高大連携の教育を発展させる。 <入学試験委員会></p>	<p>4-②-3-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度計画に挙げられている「SGH等への支援」は具体的になされているのか明らかでない。 ・引き続き、高大連携事業が高大接続入試への活用につながるよう、高大連携事業の参加者数及び事業で評価した生徒数、生徒による参加者評価結果、評価者による当事者評価結果、高校教員・大学教員の評価者参加状況など、年度毎または全体に向上していることが資料として提示できると良い。 ・高大接続入試や高大連携教育の拡大につながるよう全学的な取組とできるよう、さらに各学部の教員にも授業担当者や評価者等として参加協力していただけると良い。
	<p>4-②-4 初年次教育を含めた高大接続や積極的な入試広報活動等によって、県内出身者を含め、アドミッション・ポリシーに沿った多様な学生を確保する。 <入学試験委員会></p>	<p>4-②-4-1 (4-②-4-1-1～5)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部局ごとに取組の進捗はさまざまであるが、全学としての取組は年度計画に沿って具体的に進められている。 ・入試広報活動数、評価調査結果等、具体的な成果を記載願いたい。 ・進捗率 0%の部局が見受けられるが、問題なしと考えてよいか。 ・県内出身者の進学を促す方策について策定されているか。 ・本学が実施した高大接続事業等が大学教育・生活への移行に役立ったことが検証結果として、年度毎に蓄積され、資料として提示することができると良い。

<検証結果を示す記述>
 ・進捗状況が良好である
 ・進捗状況が概ね良好である（標準）
 ・進捗状況が不十分である
 ・保留

【研究】	中期目標	中期計画／細分化した中期計画	関連する 具体の取組番号	平成 29 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント
<p><中期目標 1> 国際・国内研究拠点の形成を目指し、先端的画像医学研究、遠赤外領域開発・応用研究、原子力安全・危機管理研究、教師教育研究などを学内横断的かつ重点的に推進する。</p>	<p>1-① 本邦初の分子イメージング部門を擁し、世界最先端画像医学研究拠点の一つである高エネルギー医学研究センターを中心に、子どものこころの発達研究センター等も参画し、子どものこころの発達研究、脳科学研究等に関する国際・国内共同研究、医工教連携研究活動を積極的に実施する。これらにより、生体機能画像研究に関する国際シンポジウム等の開催数、国際・国内共同研究の実施件数、学術誌への英語論文掲載数を第 2 期中期目標期間より 20%以上増加させる。 <高エネルギー医学研究センター></p>			<p>(検証結果) ・進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・具体の年度計画に沿って研究が進められており、関係する K P I も相応の値と思われる。 ・すべての項目について、概ね順調に推移している。</p>
	<p>1-①-1 (目標を実現するための推進方策) 高エネルギー医学研究センターを中心に、子どものこころの発達研究センター等も参画し、子どものこころの発達研究、脳科学研究等に関する国際・国内共同研究、医工教連携研究活動を積極的に実施する。 <高エネルギー医学研究センター></p>	<p>1-①-1-1 1-①-1-2 1-①-1-3 1-①-1-4 1-①-1-5 1-①-1-6</p>		<p>(検証結果) ・進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・具体の予定された取組に沿った研究が進められており、一部成果もあがっている。 ・臨床各科、子どものこころの発達研究センターと共同で研究に取り組み、一定の成果を挙げており、率にして 50～60%の進捗がみられたと記載されていた。 ・例えば、1-①-1-3 では、「オキシトシン受容体描出プローブの開発のための基礎検討を行った」と記されているが、「行う」→「行った」という記述ではサンプルに過ぎるかもしれません。せめて、「<u>成果を〇〇（学会等）において報告した。</u>」等の具体的に確認できる表現を盛り込んでもらったほうが検証が容易になって助かる。 ・研究は順調に取り組んでいるようであるが、評価指標が開発実績となっているので、開発できていることが必要。進捗はどうか？ ・プロトコル数を評価指標としているものがあるが、数的な記載がない。 ・年度計画が、「取り組む」「目指す」であり、年度ごとのゴールが明確でないため評価しにくい。 ・取組を進めていることや、成果が記載されている取組もある。しかし、進捗率の妥当性が、進捗状況の記載からは判断できない。</p>
	<p>1-①-2 (中期計画に記載の評価指標) 生体機能画像研究に関する国際シンポジウム等の開催数、国際・国内共同研究の実施件数、学術誌への英語論文掲載数を第 2 期より 20%以上増加させる。 <高エネルギー医学研究センター></p>	<p>1-①-2-1 1-①-2-2 1-①-2-3 1-①-2-4 1-①-2-5</p>		<p>(検証結果) ・保留</p> <p>(コメント) ・それぞれの評価指標に関するモニタリングが行われており、成果が明確に示されている。それぞれの K P I は相応な値となっているものと思われる。 ・受賞実績として、「研究助成」採択があげられているが、受賞実績に該当するのか明らかでない（とりあえず、一覧としてまとめ、最終的に取捨選択することになるのではないか）。 ・目標達成に向けて、今回の成果がどの程度寄与するかなどを記載願いたい。</p>

				<ul style="list-style-type: none"> ・当該計画では「医工教連携研究活動」もキーワードとなっており、それらの実績（研究数、活動数など）を記載願いたい。 ・2019 年に開催される国際学会「Brain/Brain PET 2019」の準備が進み、国際シンポジウムも開催している。また共同研究の取り組みとその成果、学術論文掲載、学術賞の受賞について進捗がみられた。論文発表と被引用数のモニタリングがなされている。また、学長のリーダーシップによる予算配分や文科省からの機能強化経費により画像医学研究分野の予算配分が増加した。 ・第 2 期より 20%以上増加させる目標の、年度ごとの目標数値を明記し、それとの比較が必要。 ・1-①-2-1 に記載の内容は、国際シンポジウム（国際ワークショップ）の開催数とは関係の無い内容に見える。 ・1-①-2-3 については、大学全体の第 3 期の英語論文掲載数の目標値が 390 編、H28 年度実績が 56 件のため、H29～H33 は毎年度 67 件の掲載が必要となる。現状高エネと子どものところで 24 件ということで、他センターの状況が分からないものの、順調とは思われる。一方で、論文の被引用数については、大学全体の第 3 期の英語論文掲載数の目標値が 2378 件、H28 年度実績が 41 件である。目標値を考えると、H28～29 では 790 件以上の被引用数が必要となる。現状高エネと子どものところで H28～29 の被引用件数は 54 件であり、進捗が非常に遅れている状況にあるようにも見える。被引用数は論文公表から時間が経過するにつれて増加するため、現状で進捗の良否を判断するのは難しいかもしれないが、研究推進課と連携するなどして、第 2 期中期目標期間中の被引用数の毎年度の増加傾向と比較し、進捗を確かめる必要があるのではないか。現状の情報だけでは進捗の良否の判断が難しい。 ・1-①-2-4 については、1 件受賞していれば、進捗率は「100%」と言って良いのではないか。2 件目に挙げている「2017 年度 特定研究助成」は受賞に該当しないのではないか。
	1-②	<p>我が国唯一で世界的にも優れた高出力遠赤外光源ジャイロトロンの研究開発実績を踏まえ、公募型国内共同研究、国際共同研究の実施や国際ワークショップの主催等を通して、新しい学術研究としての遠赤外分光・計測研究、遠赤外領域の先端科学研究および高出力遠赤外技術開発研究を推進し、学術誌への英語論文掲載数を第 2 期中期目標期間より 20%以上増加させる。</p> <p><遠赤外領域開発研究センター></p>		<p>(検証結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況が良好である <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体の年度計画に沿って取組が進められており、人材の採用など目に見える成果があがっている。 ・関係する K P I も相応な値と思われ、被引用回数を除き、達成が十分期待できる。 ・以上のことから、「進捗良好」とした。 ・すべての項目について、概ね順調に推移している。
		<p>1-②-1 (目標を実現するための推進方策)</p> <p>公募型国内共同研究、国際共同研究の実施や国際ワークショップを開催する。</p> <p><遠赤外領域開発研究センター></p>	<p>1-②-1-1</p> <p>1-②-1-2</p> <p>1-②-1-3</p>	<p>(検証結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況が良好である

		<p>1-②-1-4 1-②-1-5 1-②-1-6</p>	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロスアポイント制度による研究者の雇用など、年度計画に沿った取り組みが順調に進捗しており、明らかな成果があがっている。 ・国際・国内共同研究が多数推進され、外国人教員の雇用、若手研究者の海外招聘、先端的融合プログラムの実施等、順調に実績を挙げている。また、学長のリーダーシップによる予算配分や文科省からの機能強化経費により遠赤外領域開発研究分野の予算配分が増加した。 ・年度計画、評価指標が実施できている ・進捗状況の記載からは、進捗率の妥当性が判断できない部分もあるものの、概ね順調に取り組を進めていることはいかたがえる。
	<p>1-②-2 (中期計画に記載の評価指標) 学術誌への英語論文掲載数を第2期より 20%以上増加させる。 <遠赤外領域開発研究センター></p>	<p>1-②-2-1 1-②-2-2 1-②-2-3</p>	<p>(検証結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保留 <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの評価指標に関するモニタリングが行われており、成果が明確に示されている。それぞれの K P I は相応な値となっているものと思われる。 ・論文数に関しては当該年度目標値の 4 割となっており、後半の成果を期待したい。 ・年度の進捗が分かりやすい記載となっている。 ・学術論文、共同研究ともに順調に推移し、遠赤センター斎藤教授が日本赤外線学会から「業績賞」を授与された。 ・記載のあるものもあるが、第2期より 20%以上増加させる目標の、年度ごとの目標数値を明記し、それとの比較が必要。 ・1-②-2-1 の論文の被引用数について、「単純な年度毎の被引用数では評価できない」との記載があるが、研究推進課と連携するなどして、第2期中期目標期間中の被引用数の毎年度の増加傾向と比較し、進捗を確かめる必要があるのではないかと。現状の情報だけでは進捗の良否の判断が難しい。 ・1-②-2-2 において、「昨年度以上の実績が見込める」とあるが、第2期中期目標期間との比較を記載願いたい。また、「見込める」根拠もお示しいただきたい。 ・1-②-2-3 については、進捗率は「100%」と書いていいのではないかと。
	<p>1-③ 「安全と共生」を基本として平成 21 年 4 月に設置された附属国際原子力工学研究所を中心に、福島第一原子力発電所の事故の教訓を踏まえ、公募型共同研究等の実施、海外研究機関との研究者の相互派遣、国際ワークショップの開催等を通して、軽水炉および高速炉の安全性向上、原子力防災・危機管理、原子力施設の廃止措置、放射性廃棄物の減容および毒性の低減等に関する先進的研究を一層推進し、国際・国内共同研究等の実施件数、国際ワークショップ等の開催数、学術誌への英語論文掲載数を第2期中期目標期間より 20%以上増加させる。また、論文の被引用数と研究成果に基づく受賞の実績を増加させる。 <附属国際原子力工学研究所></p>		<p>(検証結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況が良好である <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詳細に取組内容、成果が記載されており、また進捗率も具体的なものであり、進捗の検証が容易なものとなっている。 ・具体の年度計画に沿って取組が進められており、K P I として当該年度目標値に達しているものもあるなど、被引用回数を除き、達成が十分期待できる

			<p>以上のことから、「進捗良好」とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> 概ね順調に推移しているが、一部の項目について記載内容に不足がみられた。
	<p>1-③-1 （目標を実現するための推進方策） 公募型共同研究等の実施、海外研究機関との研究者の相互派遣、国際ワークショップを開催する。 <附属国際原子力工学研究所></p>	<p>1-③-1-1 1-③-1-2 1-③-1-3 1-③-1-4</p>	<p>(検証結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 進捗状況が概ね良好である <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度計画に沿った研究が進められており、受賞、学会発表など成果があがっている。 1-③-1-4 に係る事後評価結果を記載願いたい。 大学や研究所との共同研究の実施され、大型の公募型研究費申請がなされている。一方、海外研究機関との研究者の相互派遣については記載がみられなかった。 研究は順調に取り組んでいると思われるが、評価指標が開発の成果や実績となっているので、開発できていることが必要。その進捗は判断しづらい？
	<p>1-③-2 （中期計画に記載の評価指標） 国際・国内共同研究等の実施件数、国際ワークショップ等の開催数、学術誌への英語論文掲載数を第2期より 20%以上増加させる。また、論文の被引用数と研究成果に基づく受賞の実績を増加させる。 <附属国際原子力工学研究所></p>	<p>1-③-2-1 1-③-2-2 1-③-2-3 1-③-2-4 1-③-2-5</p>	<p>(検証結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 進捗状況が良好である <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの K P I による進捗状況が分かりやすく記載されている それぞれの評価指標に関するモニタリングが行われており、成果が明確に示されている。それぞれの K P I は相応な値となっているものと思われる。特に、共同研究数は目標値を超えており、また論文数も目標値に近いなど、進捗が良好である。 今後も同様に記載願いたい。 国際シンポジウム（ConFDeC2017）が実施された。また国内・国際共同研究数、英文論文数、受賞実績が順調に推移している。また、学長のリーダーシップによる予算配分や文科省からの機能強化経費により原子力安全研究分野の予算配分が増加した。 1-③-2-2 について、進捗率：120%という表現は、内容を鑑みるに、その気持としては非常によくわかるものの、管理をモニターする指標としてはあまり適切ではないのかもしれない。例えば、進捗率は 100%を上限としておき、「〇〇については目標値の 120%を実現する等、著しい進捗がみられた。」位の表現を入れてもらう方がいいのかもしれない。 1-③-2-1 について、進捗率が「50%」ということだが、後期にも国際会議の実施を予定しているということではどうか。そうでなければ、大学全体で3期中の目標件数が6件のため、100%でもよいのではないか。 1-③-2-3 の論文の被引用数について、「今後、～被引用数の増加が見込まれる」との記載があるが、研究推進課と連携するなどして、第2期中期目標期間中の被引用数の毎年度の増加傾向と比較し、進捗を確かめる必要があるのではない

			<p>か。現状の情報だけでは進捗の良否の判断が難しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1-③-2-4 について、大学全体で 3 期中の目標件数が 12 件のため、100%でもよいのではないか。
1-④	<p>教師の学校内における職能成長を支える制度構築が求められる今日、全国に先駆け学校拠点方式の教職大学院を設置した実績を踏まえ、知識基盤社会において求められる主体的・協働的な学びを中心とする学校を実現する力を持った教師を養成することを目指し、全国に前例のない教職大学院と附属学園を一体化した教員研修制度の開発、管理職育成コースの設置、アクティブ・ラーニングを中核とする授業改善の研究開発を推進して、福井県教育委員会と連携協働した研修制度の構築、連携・拠点校の拡大、国内外の教師教育のためのネットワークの構築を実現する。</p> <p><教育学研究科></p>		<p>(検証結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 保留 <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 文科省提出年度計画に記載されている「高度化」、「組織化」、「ネットワーク化」の達成を示すことができる成果等（年度後半分も含め）を確認いただきたい。 概ね順調に推移しているが、一部の項目について記載内容に不足がみられた。 全体として、評価指標と取組内容尾伸び進捗状況の記述がそれぞれ対応して記述されていない部分が多いように思う。よって、検証結果を正確に判断することが困難だと思う。
1-④-1	<p>(目標を実現するための推進方策)</p> <p>全国に前例のない教職大学院と附属学園を一体化した教員研修制度の開発、管理職育成コースの設置、アクティブ・ラーニングを中核とする授業改善の研究開発を推進する。</p> <p><教育学研究科></p>	<p>1-④-1-1</p> <p>1-④-1-2</p> <p>1-④-1-3</p> <p>1-④-1-4</p> <p>1-④-1-5</p> <p>1-④-1-6</p> <p>1-④-1-7</p> <p>1-④-1-8</p> <p>1-④-1-9</p>	<p>(検証結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 進捗状況が概ね良好である <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体の予定された取組が順調になされている、連携・拠点校数、連合大学院の設置など一部具体的な成果があがっている。 1-④-1-8 について、ラウンドテーブル開催数が 5 回以上となっているが、目標値（予定は 5 回のような）を達成できるのか。 教育研究所の研修との連携、教職大学院と附属学園との協同研究、ラウンドテーブルの開催数については高い進捗率がみられた。また「チーム学校」拠点および連携校の数については目標を達成している。一方、大学教員の附属学園での授業参観や、外国からの研修受け入れについての進捗率はまだ十分とは言えない。 1-④-1-1 は具体的に何を進めているのかが現行の記述では不明。1-④-1-3 は評価指標に関する記載がない。1-④-1-4 では、さらに取組内容と評価指標の関係が理解しにくい記述になっている。1-④-1-5 では、評価指標の「組織化」に対する取組内容の関係が理解しにくい記述になっている。これらは、進捗率が比較的高めに見積もられているが、その根拠があいまいであるように感じる。逆に、1-④-1-9 等は研修実施が未だであってもその参加人選や準備などは進行しているはずであり、進捗率を低く見積もりすぎていると感じる。 まだ調整中のものもあるが、おおよそは順調に進んでいると思われる。
1-④-2	<p>(中期計画に記載の評価指標)</p> <p>福井県教育委員会と連携協働した研修制度の構築、連携・拠点校の拡大、国内外の教師教育のためのネットワークの構築を実現する。</p>	1-④-2-1	<p>(検証結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 保留

		<p><教育学研究科></p>		<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価指標①の値を記載願いたい。 ・連合教職大学院の設置が承認され、準備が進んでいる。JICA の研修生受け入れが予定され、子どものこころの発達研究センターとの連駅も継続している。 ・評価指標と取組内容の対応がとりづらく検証が困難であるように思う。 ・評価指標①はどのような状況か。 ・④の国内外ネットワークの拡大状況は。 ・1-④-2-1 について、評価指標の「管理職養成コースの設置と学校改革に取り組む学校数」に関する記載が無い。
<p><中期目標 2> 科学技術の発展に寄与する学術研究や地域・社会へ貢献する実践的な研究を推進する。</p>	<p>2-①</p>	<p>医学部・同附属病院では、地域の直面する少子高齢化や過疎化に対応するため、がん、発達障害や認知症、アレルギー・免疫疾患等の様々な疾患の克服を目指した先進的研究とともに、新たな医療技術の開発や地域医療の向上を目指した研究を推進し、学術誌への英語論文掲載数や研究成果の具体化件数等を第 2 期中期目標期間よりも増加させる。特に、がん、脳、アレルギー・免疫の分野では、第 2 期中期目標期間より 20%以上増加させる。</p> <p><医学部・医学系研究科></p>		<p>(検証結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保留 <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・K P I を含め、成果が確認中であり、現時点で進捗は検証できない。<u>少なくとも年度末には K P I を記載願いたい。</u> ・様々な研究が順調に推進されている。年度末には具体的な数値をそろえて検証を行うことが検証を行うことが可能であると考えられる。 ・成果について「確認作業中」ということなので判断は保留が妥当かと思う。 ・【成果】が確認作業中であり、評価できない。 ・進捗状況の記載からは、状況が分からない。進捗率が 20%～30%という数値のみで判断すると「不十分」とせざるを得ない。(進捗不十分)
	<p>2-①-1</p>	<p>(目標を実現するための推進方策)</p> <p>がん、発達障害や認知症、アレルギー・免疫疾患等の様々な疾患の克服を目指した先進的研究とともに、新たな医療技術の開発や地域医療の向上を目指した研究を推進する。</p> <p><医学部・医学系研究科></p>	<p>2-①-1-1 2-①-1-2 2-①-1-3 2-①-1-4</p>	<p>(検証結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保留 <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況の記載からは、状況が分からない。進捗率の根拠も不明である。そのため、進捗率の数字のみから判断するしかなく、30%という数値からは「不十分である」と判断せざるを得ない。(進捗不十分) ・具体の予定された研究が実施されている。 ・基礎医学・臨床医学・看護学に関する研究が順調に推進されている。年度末までには松岡キャンパスの研究活動一覧が揃うために、より具体的内容について検証することが可能となる。 ・成果について「確認作業中」ということなので判断は保留が妥当かと思う。 ・【成果】が確認作業中であり、評価できない。 ・取組は順調に進行中のようなのであるが、指標の実績については、確認中とあるため保留とする。

	<p>2-①-2 （中期計画に記載の評価指標） 学術誌への英語論文掲載数や研究成果の具体化件数等を第 2 期よりも増加させる。特に、がん、脳、アレルギー・免疫の分野では、第 2 期より 20%以上増加させる。 <医学部・医学系研究科></p>	<p>2-①-2-1 2-①-2-2 2-①-2-3 2-①-2-4</p>	<p>（検証結果） ・保留</p> <p>（コメント） ・進捗状況の記載からは、状況が分からない。進捗率の根拠も不明である。そのため、進捗率の数字のみから判断するしかなく、20%という数値からは「不十分である」と判断せざるを得ない。（進捗不十分） ・具体的数値が得られていないために、判定を保留する。年度末の進捗状況の調査までにはデータを得ることが可能であると思われる。 ・成果について「確認作業中」ということなので判断は保留が妥当かと思う。 ・【成果】が確認作業中であり、評価できない。 ・モニタリング実施予定とのことで、情報がいないため保留とする。</p>
	<p>2-② 前身の福井高等工業学校設置から 90 年以上の間、工学の幅広い分野で研究を遂行し、地域および我が国の産業力強化に貢献してきた歴史を踏まえ、工学分野の研究を強化し、工学研究科が推奨指定している質の高い学術雑誌への論文掲載数を第 2 期中期目標期間よりも増加させる。特に、ミッションの再定義で重点化した繊維・機能性材料分野では第 2 期中期目標期間より 20%以上増加させる。この目標を達成するために、メリハリのある予算配分や重点研究グループの選定、学科・専攻の枠を超えた人事の実施、研究動向の迅速な把握、定期的な異分野間の交流支援、共同研究の成果発表への投稿料助成等により、工学分野で優れた学術基盤研究・発展研究の推進、重点分野の育成を行う。 <工学部・工学研究科></p>		<p>（検証結果） ・保留</p> <p>（コメント） ・具体的な成果である 2-②-2 が集計中であり、現時点では進捗を検証できない ・文科省提出年度計画に記載されている「共同研究の届出制」について、関係する取組がなされたのか明らかでない。 ・様々な研究や取り組みが順調に推進されている。年度末には具体的な数値をそろえて検証を行うことが可能であると考えられる。</p>
	<p>2-②-1 （目標を実現するための推進方策） メリハリある予算配分や重点研究グループの選定、学科・専攻の枠を超えた人事の実施、研究動向の迅速な把握、定期的な異分野間の交流支援、共同研究の成果発表への投稿料助成等を行う。 <工学部・工学研究科></p>	<p>2-②-1-1 2-②-1-2 2-②-1-3 2-②-1-4 2-②-1-5</p>	<p>（検証結果） ・進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント） ・年度計画に沿った取組がなされている。 ・特に進捗率の高い取組については、具体的な成果を記載願いたい ・人事運用体制の一本化、共同研究の届出制による研究動向の迅速な把握、共同研究の成果発表への投稿料助成、ティータイム等について、順調に成果が挙げられている。 ・進捗率の低い 2-②-1-1 についても、実施計画や準備に問題はないことから、総合的にみて良好と判断していいと思う。 ・年度計画が明確であり、進捗の状況が判断しやすい。</p>

		<p>2-②-2 （中期計画に記載の評価指標） 工学研究科が推奨指定している質の高い学術雑誌への論文掲載数を第2期よりも増加させる。 特に、ミッションの再定義で重点化する繊維・機能性材料分野では第2期より 20%以上増加させる。 <工学部・工学研究科></p>	<p>2-②-2-1 2-②-2-2</p>	<p>(検証結果) ・保留</p> <p>(コメント) ・K P I が確認中であり、現時点で進捗は検証できない。<u>少なくとも年度末には K P I を記載願いたい。</u> ・総合 DB への入力の実施され、今後そこから抽出された数値をもとに進捗状況がモニタリングされ、検証される予定である。具体的数値が得られていないために、判定を保留する。年度末の進捗状況の調査までにはデータを得ることが可能であると思われる。 ・進捗の検証ではないのですが、関係する集計作業などは、より効率的にできるよう、総合データベース等ツールを十分に便利なものとして整備することが、大学当局として必要だと思う。 ・論文掲載のモニタリング結果がほしい。 ・モニタリングに向けての準備は整えているが、増加できているかは現状で不明であるため保留とする。 ・論文掲載数のモニタリングが開始しないと判断が難しい。</p>
<p><中期目標 3> 社会のニーズを踏まえ、本学の特色を生かした研究成果を社会に還元する。</p>	<p>3-① 福井方式として認知された産業活性化活動を進めてきた産学官連携本部を中心に、民間企業や公的試験・研究機関との共同研究育成、知的財産管理、計測技術の提供等による企業支援を統合的に行うための産学官金民の柔軟な枠組みを構築し、地域・社会の発展に資する産業や豊かな暮らしに関わる共同研究およびグローバルに訴求力のある知的財産の継続的創出を推進し、特許活用率および県内企業との共同研究割合を第2期中期目標期間よりも増加させる。 <産学官連携本部></p>	<p>3-①-1 （目標を実現するための推進方策） 民間企業や公的試験・研究機関との共同研究育成、知的財産管理、計測技術の提供等による企業支援を統合的に行うための産学官金民の柔軟な枠組みを構築する。 <産学官連携本部></p>	<p>3-①-1-1 3-①-1-2 3-①-1-3 3-①-1-4</p>	<p>(検証結果) ・進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・K P I 自体は目標値達成に必ずしも十分なものとなっていないが、3-①-1 による取組成果から鑑みると、K P I の向上も十分期待される。 ・すべての項目について、概ね順調に推移している。 ・体制整備を完了し、具体的な活動に取り組み、成果をあげつつある。</p>
		<p>3-①-1 （目標を実現するための推進方策） 民間企業や公的試験・研究機関との共同研究育成、知的財産管理、計測技術の提供等による企業支援を統合的に行うための産学官金民の柔軟な枠組みを構築する。 <産学官連携本部></p>	<p>3-①-1-1 3-①-1-2 3-①-1-3 3-①-1-4</p>	<p>(検証結果) ・保留</p> <p>(コメント) ・具体の予定された取組 (3-①-1-1~4) それぞれにあげられた様々な取組がなされ、整備事業の採択、コーディネーターの委嘱、実績数など、成果があがっている。 ・文部科学省平成 29 年度地域産学官連携科学技術振興事業補助金地域イノベーションシステム整備事業 地域イノベーション・エコシステム形成プログラムに採択された。また福井大学の研究に関する秘密情報管理規程を整備中である。知財出願件数も順調に推移している。また福井銀行行員 7 名を福井大学産学官金連携コーディネーターとして委嘱し、新たな取り組みを行っている。 ・URA や技術移転推進、設備共用等の諸活動を円滑に推進する体制を整備し、地域産学官金連携の枠組みであるふくいオープンイノベーション推進機構と</p>

			<p>の密接な連携による研究成果の具体的な社会提供に貢献していると思う。今後、成果の社会提供について、より定量的な見える化をしていけるよう努めることが重要になってくると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価指標に関する数字の記載があるが、年度計画の取組の進捗状況の記載が乏しい。 ・取組を進めていることはうかがえるものの、評価指標や平成 29 年度の計画の進捗状況が分からないため、進捗状況の評価が難しい。
	<p>3-①-2 （中期計画に記載の評価指標） 特許活用率および県内企業との共同研究割合を第 2 期よりも増加させる。 <産学官連携本部></p>	<p>3-①-2-1</p>	<p>(検証結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況が不十分である <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術相談件数が昨年度より大幅に減少。共同研究数も伸び悩んでいるようだ。（進捗不十分） ・技術相談の数、地域企業共同研究数の目標達成が可能か。（進捗不十分） ・地域との共同研究割合が 25.9%程度であり、目標の 50%程度を考えると、達成が厳しい状況に見える。（進捗不十分） ・KPI から鑑みると、目標値達成に必ずしも十分な値とはなっていないが、3-①-1 の推進による成果を期待したい。 ・産学官コーディネータ 3 名の技術相談件数、地域企業共同研究件数が順調に推移している。特許活用率については記載がみられない。 ・特許活用率に関する記述は、年度ごとの集計でないと正確には議論できないものの、途中経過を確認するためには上半期での値と算出に必要な根拠データを算出できるよう工夫が必要と考える。共同研究数は、現状ですすでに前年同月の値を上回る等、計画の進捗に問題はないと思う。地域企業との共同研究件数も現状ですすでに前年値に達する見込みが立っていますが、一方で、地域外を含めた総数にも伸びがみられていることで割合としては、前年同月比でほぼ同等となっているので、目標達成のためには今後 10 件程度以上の地域企業との共同研究契約を得る必要があると思われるが、そのためには CD や URA、産学官連携本部教員だけではなく、その他の教職員を起点とする多様な分野で広がりのある共同研究の企画、推進支援が必要になっていくと思う。
<p><中期目標 4> 研究活動の高度化および効率化のために、研究の体制および環境を整備する。</p>	<p>4-① 国際的な共同研究および研究者交流を推進するとともに、新たな学問領域の創生や社会的な課題解決のために、国、大学、学部などの枠を超えた様々な連携体制を構築し、国際共著論文や国内大学・研究機関共著論文並びに学内学部間の共著論文等の数を第 2 期中期目標期間よりも増加させる。 <研究推進委員会></p>		<p>(検証結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況が概ね良好である <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KPI 自体は確認中であり進捗を検証することはできないが、4-①-1 について年度計画に沿った取組がなされており、一部実績もあがっている。 ・文科省提出年度計画について、クロスアポイントメント制度の実績（遠赤）があるのではないかと。また、「共同研究への支援」による成果である研究論文数以外に、研究件数、関係者からの好評など多角的にこの支援の成果を示せるよ

			<p>う配慮いただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての項目について、概ね順調に推移している。
	<p>4-①-1 （目標を実現するための推進方策） 国、大学、学部などの枠を超えた様々な連携体制を構築する。 <研究推進委員会></p>	<p>4-①-1-1 4-①-1-2 4-①-1-3 4-①-1-4</p>	<p>(検証結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 進捗状況が概ね良好である <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体の予定された取組がなされており、一部実績もあがっている。 4-①-1-1、-2、-4 では「検証・見直し」があげられているが、それらは具体的になされているのか（一部は実施されているが）。<u>その結果等を記載願いたい</u> <u>それぞれの取組による実績値が記載されているが、前年度比など、向上具合を記載願いたい。</u> 内外の大学・研究所との共同研究が遂行されている。ライフサイエンスイノベーションセンターでは公募採択型研究費の募集を行い、学部を超えた連携体制の構築が順調に推移している。 一部、年度計画にある検証と見直しは今後となるが、取組は順調に進んでいる。 取組を進めていることはうかがえるものの、4-①-1-1 については、平成 29 年度の計画、4-①-1-2 については評価指標の一部と平成 29 年度の計画、4-①-1-3 については評価指標、4-①-1-4 については評価指標に対して、進捗状況が記載されておらず、判断が難しい。
	<p>4-①-2 （中期計画に記載の評価指標） 国際共著論文や国内大学・研究機関共著論文並びに学内学部間の共著論文等の数を第 2 期よりも増加させる。 <研究推進委員会></p>	<p>4-①-2-1 4-①-2-2 4-①-2-3</p>	<p>(検証結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 保留 <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> K P I が確認中であり、現時点で進捗は検証できない。<u>少なくとも年度末には K P I を記載願いたい。</u> 総合 DB への項目追加が実施されたが、具体的数値が得られていないために、判定を保留する。年度末の進捗状況の調査までにはデータを得ることが可能であると思われる。 本質的には目標達成に向けた努力が継続されていると思われ、関係者の取組については概ね良好に進行していると考えていいと思います。ただ、評価をするためのツールであるはずの DB システムの方の問題で、評価を効率的に行えていないことは、問題としてはかなり大きいと思う。 モニタリングがあまり進んでいない モニタリングができていないため、保留。 論文掲載数のモニタリングが開始しないと判断が難しい。

	<p>4-② リサーチ・アドミニストレーター等を活用した研究支援体制の高度化、研究マネジメント機能の強化、学内競争的研究経費の確保と戦略的配分、外部研究資金の獲得等により、研究力を強化し、研究活動を効果的・効率的に推進する。 <新産学連携・研究推進組織></p>	<p>(検証結果) ・進捗状況が概ね良好である</p>
	<p>4-②-1 (目標を実現するための推進方策) リサーチ・アドミニストレーター等を活用した研究支援体制の高度化、研究マネジメント機能の強化、学内競争的研究経費の確保と戦略的配分、外部研究資金の獲得等を行う。 <新産学連携・研究推進組織></p>	<p>(コメント) ・K P I 自体は昨年度同期に比べておおむね低下しているが、良好に進捗している 4-②-1 の取組によって、向上することを期待する。 ・文科省提出年度計画にあげられた「学内競争的研究経費の確保」は達成されているのか、<u>具体的な数値を示してほしい。</u> ・すべての項目について、概ね順調に推移している。</p>
	<p>4-②-1 (目標を実現するための推進方策) リサーチ・アドミニストレーター等を活用した研究支援体制の高度化、研究マネジメント機能の強化、学内競争的研究経費の確保と戦略的配分、外部研究資金の獲得等を行う。 <新産学連携・研究推進組織></p>	<p>(検証結果) ・進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・具体の予定された取組が順調になされている。 ・4-②-1-2～4については、<u>「検証と見直し行い、実行に移す」としているが、具体的な検証・見直し結果の概要も記載願いたい。</u> ・地域産業戦略と連携した共同研究を推進させるよう、研究マネジメント機能の強化が図られている。また学内競争的研究経費の確保と戦略的配分を行っている。 ・検証と見直しは今後も継続して実施する必要があるが、となるが、取組は順調に進んでいる。 ・平成 29 年度の計画にある、妥当性評価 (4-②-1-1)、活動内容の検証と見直し (4-②-1-2)、参加実績の検証と見直し (4-②-1-4) について記載がなく、判断が難しい。</p>
	<p>4-②-2 (中期計画に記載の評価指標) — <新産学連携・研究推進組織></p>	<p>(検証結果) ・進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・4-②-2-1 K P I 自体は前年 9 月に比して共同研究数以外は低値となっている。しかしながら、4-②-1 の取組が進んでおり、後半の回復を期待したい。(進捗不十分) ・4-②-2-2 人材数に関しては、これは向上したのかどうか明らかでない。<u>その点を記載願いたい。</u> 以上、K P I から鑑み、「進捗不十分」とした。 ・適切にモニタリングが実施されている。 ・前年に比べて、外部資金の獲得状況が低いものがある。 ・適正な人材数の評価が必要と思われる。 ・数値をモニタリングできている。しかし、平成 29 年度の計画にある「動向を把握」まで行うのであれば、数値の増減の原因分析や、今後の対応の必要性の</p>

				<p>有無の判断や、対応が必要な場合の方策の検討に資するよう、データの詳細分析を行い、その結果も記載していただきたい。</p>
<p><中期目標 5> 研究水準の向上を図るため、適切な評価を実施する。</p>		<p>5-① IR を用いた意思決定支援機能を整備することにより、研究の質・量に関する多面的な評価システムを全学的に充実・強化して、先端的研究や強みとなる研究分野への財政的・人的支援を行うなど、戦略的な研究資源配分を行う。 <新産学連携・研究推進組織></p>		<p>(検証結果) ・進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・目標である「研究水準の向上」を具体的に示す指標等を検討いただきたい ・すべての項目について、概ね順調に推移している。 ・活動を通して実績・情報を蓄積し、システムの最適化を図っていく持続的な取組が必要だと思う。</p>
		<p>5-①-1 (目標を実現するための推進方策) IR を用いた意思決定支援機能を整備することにより、研究の質・量に関する多面的な評価システムを全学的に充実・強化する。 <新産学連携・研究推進組織></p>	<p>5-①-1-1 5-①-1-2 5-①-1-3 5-①-1-4</p>	<p>(検証結果) ・進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・具体の取組が詳細に記載されており、進捗の検証が容易である。 ・具体の予定された取組が順調になされている。 ・適切に実施されている。従来の研究活動に関するデータ分析がなされているが、現在遂行している研究の有効性・効率性（定義がよくわかりませんが）の分析をどう行うべきかが検討課題であると考えられる。 ・それぞれの取組が順調に進んでいると思われる。</p>
		<p>5-①-2 (中期計画に記載の評価指標) 先端的研究や強みとなる研究分野への財政的・人的支援を行うなど、戦略的な研究資源配分を行う。 <新産学連携・研究推進組織></p>	<p>5-①-2-1</p>	<p>(検証結果) ・進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・<u>人的支援実績を記載願いたい。</u> ・適切に実施されている。学長のリーダーシップによる予算配分や文科省からの機能強化経費により重点研究分野の予算配分が増加した。学長裁量経費による学内競争的研究経費支援制度により、新たに KPI 等への貢献等を配慮した戦略的配分を実施されている。 ・人的支援についての戦略的資源配分の検討が必要と思われる。</p>

<検証結果を示す記述>
 ・進捗状況が良好である
 ・進捗状況が概ね良好である（標準）
 ・進捗状況が不十分である
 ・保留

【社会貢献】

中期目標	中期計画／細分化した中期計画	関連する 具体の取組番号	平成 29 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント
<p><中期目標 1> 地域の知の拠点として地域社会との連携を強化し、地域社会を志向した教育・研究を推進し、地域の人材養成と課題解決に寄与する。</p>	<p>1-① 自治体および地域産業界との連携を強化するとともに、県内 5 大学が連携して地域志向教育と特色人材育成を行い、卒業生の地域定着を推進するために、COC 推進機構を中心とする全学的な地域貢献推進体制を平成 28 年度末までに確立し、ふくい COC+事業評価委員会などの外部評価委員会とアドバイザーボード等による評価および事業推進委員会による改善を継続的に実行する。 <COC 推進機構></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度前半では K P I は目標値に比べて低値になっており、後半の向上を期待したい。そのためには、活性化方策が実施されなければならないが、今年度前半では必ずしも十分な対応がなされていない。(進捗不十分) ・文科省提出年度計画では「教員評価を活用することによって活性化する」としているが、その効果をどのように検証するのか検討いただきたい。(進捗不十分) ・COC 推進機構が「地(知)の拠点整備事業」を含む地域・社会貢献事業を一元的に管理する体制が整備され、ふくい COC+事業推進協議会、ふくいオープンイノベーション推進機構等を通じた地域・産業界との連携体制が構築された。この体制にもとで、県内 5 大学による地域志向科目の共同開講や単位互換制度が順調に実施されるとともに、ふくい地域創生士の認定方法が整備され、29 年度末に認定が行われることが決定している。また、29 年 9 月に実施した外部評価では、COC ならびに COC+事業による取組が高く評価された。さらに、平成 30 年 2 月にはアドバイザーボードが実施され、事業推進協議会等で意見が報告されることが決定している。本目標の計画が全体的に順調に推移する中で唯一の不安材料は、重要な評価指標である地域貢献に参画する教員の割合が計画を大きく下回っている点にある。これについては、これは新総合データベースの機能不足に起因する面が多いと思われるが、今後確実に改善することが急務である。
	<p>1-①-1 自治体および地域産業界との連携を強化するとともに、県内 5 大学が連携して地域志向教育と特色人材育成を行い卒業生の地域定着を推進するために、COC 推進機構を中心とする全学的な地域貢献推進体制を平成 28 年度末までに確立する。 <COC 推進機構></p>	<p>1-①-1-1 1-①-1-2 1-①-1-3</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合DBの見直しによって集計の支障があることは十分理解できるが、参加教員の割合が 76% となっており、目標値に達していない。平成 25 年度からの実績では 91.15% と目標値を達成しているが、これは逆に本年度の実績が必ずしも十分でないことを反映しているのではないかと。本年度後半の向上を期待したい。(進捗不十分) ・1-①-1-2 について、当該年度計画では、表彰制度の整備やインセンティブの付与による活性化があげられているが、相当する取組がなされているのか明らかでない。教員評価の活用だけでなく、具体的な活性化方策の推進をお願いしたい。(進捗不十分) ・COC 推進機構が「地(知)の拠点整備事業」を含む地域・社会貢献事業を一元的に管理する体制が整備され、ふくい COC+事業推進協議会、ふくいオープンイノベーション推進機構等を通じた地域・産業界との連携体制が構築された。

			<p>しかしながら、地域貢献活動に参加する教員の割合は目標を大きく下回っており、上記のように検証した。これは新総合データベースの機能不足に起因する面が多いと思われるが、今後確実に改善することが急務である。（進捗不十分）</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合データベースについては、更に改良を進める必要がある。特に、蓄積したデータを有効に活用できる仕組みを構築が必要である。
	<p>1-①-2 ふくい COC+事業評価委員会などの外部評価委員会とアドバイザリーボード等による評価および事業推進委員会による改善を継続的に実行する。 <COC 推進機構></p>	<p>1-①-2-1</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 委員会等による取組の検証ならびに改善をすることになっているが、具体的取組ではそれがなされているのか明らかでない。（進捗不十分） 具体的な検証結果や改善事例等を記載願いたい。 外部評価が実施され、COC ならびに COC+事業について、補助終了後の継続体制についての助言が提言されたものの、事業自体は高く評価された。また、アドバイザリーボードは 30 年 2 月 27 日の「ふくい地域創生士」の授与式後に実施されることも決定しており、外部からの意見・提言を収集することは着実に行われていることが確認できたが、これらの提言を取組の改善につなげられるか注視する必要がある。 学部のコメントが無い。
	<p>1-② 地域志向と主体性の育成を重視した「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」と連動させた全学的な教育カリキュラム改革を継続し、地域志向・実践系科目数を増加させるとともに、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業参加大学間の地域志向科目の相互開放と単位認定等を拡充し、社会が求める高度専門職業人の養成と、地域への定着を推進し、地域社会の持続的発展に寄与する。また、グローバルサイエンスキャンパス事業の実施やスーパーサイエンスハイスクール並びにスーパーグローバルハイスクール事業への支援、さらには、公開講座の開催や大学開放講義等への協力を通じて、地域の児童・生徒に先進的教育を提供し、次世代を担う人材創出に繋げるとともに、地域住民との協働的学習・活動を通して、地域を支える人材の創出、キャリアアップ学習および生涯学習に積極的に貢献する。 <COC 推進機構></p>		<p>（検証結果） 進捗状況が不十分である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 以下の記載したように、細分化された計画の内二つが「進捗状況が不十分である」である。取組の内容、それから期待される成果などが具体的に見えないものが多々ある。また、関係する K P I が示されないものが多く進捗を検証することができず、よって「進捗状況が不十分である」とした。（進捗不十分） 文科省提出年度計画にあげられた「アクティブラーニングの授業内容・授業形態を取り入れた科目を整備する」としているが、地域志向に関連したこのような科目の増加状況はいかがか。（進捗不十分） COC+の教育プログラム開発委員会及び拡大教育プログラム開発委員会の下、学内の地域志向教育検討体制を平成 28 年度中に整備され、参加大学による開放講義双方向授業と単位の互換が着実に実施されていること、ふくい地域創生が 30 年 3 月までに輩出されることなど、COC+関連事業が着実に実施されていることが確認できた。また、地域の児童・生徒への先進的教育の提供ならびに地域住民への教育サービスの提供も実施されていることが確認でき、上記の判断とした。

	<p>1-②-1 地域志向と主体性の育成を重視した「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」と連動させた全学的な教育カリキュラム改革を継続し、地域志向・実践系科目数を増加させる。 <COC 推進機構></p>	<p>1-②-1-1 1-②-1-2 1-②-1-3 1-②-1-4 1-②-1-5</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの取組が「予定」、「検討」などに留まっており、当初設定した取組の目標が達成できるのか不透明である。(進捗不十分) ・それぞれの評価指標に関する記載がないため、進捗が検証できない。(進捗不十分) ・進捗率が低い取組もあり (1-②-1-2~4)、今後の一層の推進が望まれる。(進捗不十分) ・1-②-1-2 について、<u>資格取得者数の予想数を記載願いたい。</u> ・1-②-1-3 では「大学開放状況」があげられているが、相当する取組はなされているのか。(進捗不十分) ・中期計画では「地域志向・実践系科目数を増加」をあげているが、その状況を記載願いたい。 ・それぞれの取組に係る K P I について、<u>現在の数値を記載願いたい。</u> ・医学部関係の分に関しては具体的データの記載がないため評価不能 ・COC+の教育プログラム開発委員会及び拡大教育プログラム開発委員会の下、学内の地域志向教育検討体制が整備された。 ・地域コア科目の 2 科目 4 単位の必修化、地域志向科科目および PBL 科目の重点化が進行し、受講学生の実績も期待通りであると判断できる。 ・地域の産業人材のキャリアアップならびにグローバル化対応プログラムについても計画に従って取り組んでいるが、設定している KPI の達成は今後の取組の加速化が必要と判断される。 ・学部のコメントが無い。
	<p>1-②-2 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業参加大学間の地域志向科目の相互開放と単位認定等を拡充し、社会が求める高度専門職業人の養成と、地域への定着を推進し、地域社会の持続的発展に寄与する。 <COC 推進機構></p>	<p>1-②-2-1 1-②-2-2 1-②-2-3</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1-②-2-1 について、「全員の受講」をあげているが、現在の受講状況が記載されていないので進捗は不明であるが、進捗率 5 0 %とは 5 0 %の学生が受講していることを示しているのか。(進捗不十分) ・1-②-2-2 について、開講数、開講予定数が記載されているが、これはサテライトキャンパス授業に相当するのか。また、<u>開放科目受講者数・単位取得者数について具体的な数値を示してほしい。</u>(進捗不十分) ・1-②-2-3 について、定着者数の調査は行われているのか明らかでない。<u>その数値を記載願いたい。</u>また、定着者数の向上に向けた具体的な取組はなされているのか。(進捗不十分) ・医学部関係の分に関しては具体的データの記載がないため評価不能 ・地域志向科目の必修化と PBL 科目を含む重点化、ならびに F スクエアによる開放講義や双方向授業が着実に実施されている。平成 28 年度の開放科目受講者を対象としたアンケートを行った。これを受けて F スクエアでの 5 大学開放

				<p>科目の内容を一部変更し拡充するとともに、COC+参加大学すべてによる双方向授業が開始された。これらの開放科目の受講者数ならびに単位互換も計画通り推移する見通しが得られている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアセンターを中心に各学部や COC 推進室が連動し、自治体および産業界が協働し、学生の地域定着を増進させることを目的としたインターンシップや企業説明会を実施している。インターンシップに参加することを含めた「ふくい地域創生士」の要件ならびに申請・認定手順が決定され、平成 30 年 3 月に認定が行われることが決定している。 <p>以上から、地域社会の求める高度専門職業人の教育システムが構築されつつあり、地域への定着に向けた環境整備が進展していると判断できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部のコメントが無い。
		<p>1-②-3 グローバルサイエンスキャンパス事業の実施やスーパーサイエンスハイスクール並びにスーパーグローバルハイスクール事業への支援、さらには、公開講座の開催や大学開放講義等への協力を通じて、地域の児童・生徒に先進的教育を提供し、次世代を担う人材創出に繋げる。 <地域貢献推進センター></p>	<p>1-②-3-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取組が進められており、高い満足度など成果があがっている。 ・SSH、SGH に係る取組みはなされているのか明らかでない。 ・<u>a-c)に示された延べ人数などの具体的な数値を記載願いたい。</u> ・医学部関係の分に関しては具体的なデータの記載がないため評価不能 ・GSC では、インテンシブコースならびにアドバンスコースともに、予定を上回る参加者が実習や先端的生命医科学研究を行っており、GSC 全国受講生発表会や海外でのラボ研修なども予定されていること、公開講座、「ひらめき☆ときめきサイエンス」採択プログラムならびに「福井大学きてみてフェア」などで、地域の児童・生徒に先進的教育を提供していること、受講生等へのアンケートが実施され、次年度に反映させる予定であるなどを確認した。 ・これらの先進的教育を受けた優れた人材を、福井大学に入学させる取組も検討する必要もあるのではないかとと思われる。
		<p>1-②-4 地域住民との協働的学習・活動を通して、地域を支える人材の創出、キャリアアップ学習および生涯学習に積極的に貢献する。 <地域貢献推進センター></p>	<p>1-②-4-1 1-②-4-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1-②-4-1 について、公開講座や市民開放プログラムの受講者数等は、昨年度実績に比べ増加・減少はあるものの、継続的に実施されている。後半での向上を期待したい。 ・<u>受講者の満足度調査結果の概要を記載願いたい。</u> ・1-②-4-2 について、医学部と産学官連携本部の取組み以外すべて進捗率が 0% であるが、他部局では関係の取組が実施されているか明らかでない。 ・医学部におけるキャリアアップの取組は精力的になされているが、<u>受講者数や満足度の向上など、具体的な K P I の状況を記載願いたい。</u> ・生涯学習、キャリアアップ教育はここに記載された以外にもいろいろ実施されているのではないかと。そのあたりも取り纏め願いたい。

			<ul style="list-style-type: none"> ・医学部関係に関しては概ね計画どおりに進捗している。医学部医学科 2 年生に対する緊急被爆医療に関する教育講演の実施により、本学医学部医学科学生がどの程度、被爆医療に関わる意識を涵養することができたかの評価がほしい。それにより 2 年生を対象とすることの妥当性の検証が必要ではないか。 ・引き続き多くの生涯学習市民開放プログラム等が開講されているが、受講者の高齢化や伸び悩みも認められる。 ・県立大学が開放科目の受講料を大幅に下げたことなども影響があると思われる、生涯学習に対する大学としての方向性を定めることも必要と思われる。 ・学部のコメントが無い。
<p>1-③ 教育、研究、診療活動などの成果を広く発信し社会に還元するとともに、地域のニーズと大学のシーズの効果的なマッチングおよび連携・協働による地域の課題解決に向けた取組みを進める。さらに地域の課題として顕在化した「人材育成」「ものづくり」「持続可能な社会・環境づくり」などの重点分野の教育・研究を進展させるとともに、福井大学と地（知）の拠点大学による地方創生推進事業参加大学が連携しそれぞれの強みを活かした特色人材育成と地域の課題解決を図る取組みを拡充し雇用創出と地域創生に貢献する。</p> <p><COC 推進機構></p>			<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文科省提出年度計画にあがっている「重点化した分野の教育研究状況の検証、それに基づく定借・改善」の実績を示すことができるのか。(進捗不十分) ・「10 のWGにおいて具体的な内容を検討する」としているが、相当する取組がなされていないが、今年度後半で実施するのか明らかでない。(進捗不十分) ・記者発表や記事の投げ込みなどで情報発信に努めていること、大学 HP を見直し、「附属施設」カテゴリ、産学官連携本部のバナー等を追加し、各センターの HP へのアクセスを容易にするなどの努力が認められるが、その成果を量的に計る HP アクセス回数などの集計も実施すべきである。
	<p>1-③-1 教育、研究、診療活動などの成果を広く発信し社会に還元する。</p> <p><広報センター></p>	<p>1-③-1-1 1-③-1-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1-③-1-1 について、様々な広報活動が精力的に実施されている。しかしながら、その成果は「ニュースとして報道機関に取り上げてもらう」となっており、<u>本年前期でどの程度取り上げられたのかの実数を記載願いたい。</u> ・1-③-1-2 について、「a)の完成後速やかに」としているが、a)は完成できたのか明らかでない。また、<u>進捗度 100%としているが、その具体的な成果を示してほしい。</u> ・本学の活動状況を HP 掲載、記者発表、記者レクチャー、福井県教育記者クラブの投げ込みなどが多様な媒体・方法で発信していることは認められるが、HP の閲覧数やアクセス数などの集計も行って行く必要があると思われる。
	<p>1-③-2 地域のニーズと大学のシーズの効果的なマッチングおよび連携・協働による地域の課題解決に向けた取組みを進める。</p> <p><COC 推進機構></p>	<p>1-③-2-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審議会等への派遣教員数、事業数が記載されているが、目標値達成に十分なのかどうか明らかでない。<u>例えば、前年度比、目標値への達成度など、具体的なエビデンスを記載願いたい。</u>(進捗不十分)

				<ul style="list-style-type: none"> ・ここでは「体制が有効であるか」を具体的な取組としているが、どのように検証するのか明らかでない。（進捗不十分） ・医学部関係の分に関しては具体的データの記載がないため評価不能 ・<u>医学部から毎年提出しているシーズに対しどの程度のマッチングが行われたかの具体的数値が評価する上で必要</u> ・福井県内自治体との連携事業数および審議会等への派遣教員数が高い水準を維持していることは評価できるが、それによってもたらされた効果・実績を強調していく工夫が期待される。 ・学部のコメントが無い。
		<p>1-③-3 地域の課題として顕在化した「人材育成」「ものづくり」「持続可能な社会・環境づくり」などの重点分野の教育・研究を進展させる。 <COC 推進機構></p>	<p>1-③-3-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1-③-3-1-1~4 を取りまとめたもの（1-③-3-1）では、FRESKOのみが取り上げられており、また進捗率0%となっている。それぞれの部局では様々な取組みが進められているが、取りまとめ部署によって全学としての取りまとめがなされていない。（進捗不十分） ・細分化された中期計画では重点分野における教育・研究を進展させるとしており、取りまとめとしては各部局のものを重点分野に整理分類する必要がある。 ・1-③-3-1-1、2について、教育学部、医学部では関係する取組が精力的に行われており、一部成果があがっており、更なる成果が期待できる。（進捗不十分） ・1-③-3-1-3、4 は中期計画 1-②に含まれるものではないか。また評価指標 b)は不適當ではないか。（進捗不十分） ・<u>評価指標に関して、向上しているかが示せるよう記載が望まれる。</u> ・緊急被ばく医療総合シミュレーション基礎コースによる多職種医療人のキャリアアップ教育、福井県教育総合研究所との教職員の相互派遣による共同体制の確立、CST 養成プログラムの開講と、養成した CST による実践的現職教員支援、など地域に求められる専門人材のキャリアアップ教育で貢献していることが認められる。
		<p>1-③-4 福井大学と地（知）の拠点大学による地方創生推進事業参加大学が連携しそれぞれの強みを活かした特色人材育成と地域の課題解決を図る取組みを拡充し雇用創出と地域創生に貢献する。 <COC 推進機構></p>	<p>1-③-4-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九つあげられた具体の予定された取組の内、実際にいくつ進められているのか、現在開始されていないものは本年後半から開始するのか明らかでない。（進捗不十分） ・本年度では参加大学との連携数は一つであるが、今後連携数を増やす方策はあるのか。（進捗不十分） ・福井地産商品の開発と地産品を活用した休憩施設でのサービス・商品開発等の提案を行う共同研究を締結するなど、産学官による連携拡大、地域活性効果に関する研究が緒に就いているが今後の成果に期待したい。

				・COC+事業の特色人材育成部会の連携授業として 6 次産業商品の開発などの活動実績の報告会の開催と実施報告書配布などの実績が確認できた。
<p><中期目標 2> 地域の教育研究拠点としての機能を強化するため、教育・医療・産業界等との協力関係を戦略的に強化し、地域の教育力向上、健康を守る地域医療の向上並びに産業の発展に繋がるイノベーション創出を積極的に推進し、地域・社会の持続的発展に貢献する。</p>	<p>2-① 三位一体改革により、知識基盤社会における先導的な教師教育モデルを提示し、実施中の拠点校方式による教師教育をさらに発展させることと併せ、福井県全 8、000 人の教員の資質向上など、地域の教育力向上に貢献する。そのため、第 3 期中期目標期間中に、教員養成系の教員のうち、学校現場で指導経験のある教員を 30%以上、実践的活動に関わる教員を 60%以上確保し、地域の学校教育における実践的指導力の更なる向上を図る。学校教育課程においては、教員養成機能を重視した組織改革を進め、第 3 期中期目標期間中も引き続き教員就職率 70%以上を維持することで、福井県における義務教育教員の占有率 55%以上を目指し、教職大学院の課程においては、現職教員を除く修了生の教員就職率概ね 100%を維持する。 <教育学部></p>			<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 以下の細分化された中期計画について、目標値への到達など、成果があがる取組みがなされている。しかしながら、文科省提出年度計画に対応する具体的な成果が出るよう配慮願いたい。 本学が福井県の教員の再教育・キャリアアップに高い貢献を果たしていることは確認できたが、卒業生・修了生の教員就職率の設定目標に対する実績は低く、何らかの見直しも必要と判断される。
		<p>2-①-1 三位一体改革により、知識基盤社会における先導的な教師教育モデルを提示し、実施中の拠点校方式による教師教育をさらに発展させることと併せ、福井県全 8、000 人の教員の資質向上など、地域の教育力向上に貢献する。 <教育学部></p>	<p>2-①-1-1 2-①-1-2 2-①-1-3 2-①-1-4</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体の予定された取組が順調に行われており、すでに目標値に達している KPI もあるなど、進捗は良好である。 教員免許更新講習については、福井県内教員の更新講習対象者の 45%を超える講習を担当し、当初の目標がクリアされていること、学校マネジメントコースによる管理職教諭の育成についても、現場の実践に即して大学教員と院生が協働する体制が拡充するなど、福井県の教員のキャリアアップ教育に着実に貢献していることを確認した。
		<p>2-①-2 教員養成系の教員のうち、学校現場で指導経験のある教員を 30%以上、実践的活動に関わる教員を 60%以上確保し、地域の学校教育における実践的指導力の更なる向上を図る。 <教育学部></p>	<p>2-①-2-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係する評価指標である教員の確保率、活動回数の実績を記載願いたい。 「現場実践 6 割タスクフォース」を実行するいくつかの試みが実施されているようであるが、その集計を行い KPI として見える化を行うべきである。
		<p>2-①-3 教員養成機能を重視した組織改革を進め、第 3 期中期目標期間中も引き続き教員就職率 70%以上を維持することで、福井県における義務教育教員の占有率 55%以上を目指し、教職大学院の課程においては、現職教員を除く修了生の教員就職率概ね 100%を維持する。 <教育学部></p>	<p>2-①-3-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体の予定された取組が順調に行われており、目標達成が期待できる。 本学卒業・修了者の教員採用実績については目標に遠く及ばず中期計画の見直しも必要と判断される。(進捗不十分)

	<p>2-② 人口減少、高齢化の進む地域社会における医師・看護師を中心とする多職種連携による医療の教育・実践の推進により、生涯学習に参加する多職種の医療人を増加させ、地域の自治体や住民に関連した取組みを 20%増とし、自治体の各種医療審議会などへの教職員の参加実績を引き続き高水準に維持する。さらに、ICT ネットワークを用いた地域医療支援のモデルシステムを構築し、その利用を増加させる。加えて関連病院長会議のメンバーである県内基幹病院を中心に地域医療強化のための連携を推進するとともに、地域医療の向上に貢献する。</p> <p><医学部></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体の取組内容、成果等が詳細に記載されており、進捗の検証が容易である ・ 以下に記載するように、年度計画に沿った取組が順調になされており、目標値の達成など、成果があがっている ・ 確認であるが、文科省提出年度計画に記載した具体的な項目は大よそ達成できたと考えてよいのか。達成できていないものがあれば、後半での達成を期待する。特に、数値が記載されているものについては、それが達成されているか確認願いたい ・ 福井県内派遣の辞退率など今後、目標達成がより困難となる要因がある。(進捗不十分) ・ ICT ネットワークに関して進捗が不十分であり現在の進捗状況では3期の当初予定の達成が困難であることが危惧される。講演会の集計方法の整備やふくいメディカルネットの利用促進会の開催などが行われているが、その成果が数値目標に反映されているか否かの検証が不十分である。(進捗不十分)
	<p>2-②-1 人口減少、高齢化の進む地域社会における医師・看護師を中心とする多職種連携による医療の教育・実践の推進により、生涯学習に参加する多職種の医療人を増加させ、地域の自治体や住民に関連した取組みを 20%増とし、自治体の各種医療審議会などへの教職員の参加実績を引き続き高水準に維持する。</p> <p><医学部></p>	<p>2-②-1-1 2-②-1-2 2-②-1-3 2-②-1-4 2-②-1-5</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体の予定された取組が順調に実施されている。また、すでに目標値に達している（高い満足度も含め）ものあり、進捗状況は良好である。 ・ 多くの取組の進捗率は100%となっているが、本年後半でも更なる取組の推進を期待したい。 ・ 2-②-1-2 について、辞退率が高いが、何か対応策はあるのか。 ・ 初期研修終了後の福井県内派遣の辞退率が27.3%と高い。辞退することが可能であるとの情報が下の学年に伝わるとさらに辞退率が増加することが危惧される。辞退者を防ぐ具体的対策の検討が必要である。(進捗不十分) ・ 自治体等との連携事業として実施した講演会の集計方法を整備したとなっているが、整備したことにより把握できている講演会の実施件数の増加が示されていない。(進捗不十分)
	<p>2-②-2 さらに、ICT ネットワークを用いた地域医療支援のモデルシステムを構築し、その利用を増加させる。</p> <p><医学部></p>	<p>2-②-2-1 2-②-2-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体の予定された取組が順調に実施されている。 ・ 2-②-2-1 について、今回予備導入試験を2回行っているが、目標値19回以上の実施に向けて、取組を進めてほしい。 ・ 2-②-2-2 について、進捗率が100%となっているが、更なる取組の推進を期待したい。 ・ 地域の救急医療体制向上に関する成果は概ね順調といえるが、サ高住でのデータ

			収集 2 回しか実施されておらず、解析を行うにたるデータが得られのかが不明である。そのため、警報アルゴリズムの作成にはほど遠い進捗状況と言える。（進捗不十分）
	2-②-3 関連病院長会議のメンバーである県内基幹病院を中心に地域医療強化のための連携を推進するとともに、地域医療の向上に貢献する。 ＜医学部＞	2-②-3-1	（検証結果） 進捗状況が良好である （コメント） ・具体の予定された取組が順調に実施されており、当初予定の多くが達成されている。 ・今後、細分化した当該計画の目に見える成果を提示できるよう、配慮いただきたい。 ・ふくいメディカルネットの利用促進会を予定回数実施していることは評価されるが、その結果閲覧患者数が何%増加したのかの評価が必要。
	2-③ 地域産業戦略と連携した共同研究を「産学官金」連携により推進する体制を平成 29 年度末までに構築し、研究者情報や研究成果情報を広く社会に発信する。さらに、知財を含む様々な情報を地域でオープンに共有し、多様性を確保して対話を促進することにより、“産”の市場指向力と“学官”の基盤的研究能力、“金”のプロモート能力を融合したニーズ駆動型地域イノベーションを創出、推進する仕組みを構築し、持続的な技術移転や共同研究成果の創出に繋げ、活力ある地域社会の形成に貢献する。 ＜産学官連携本部＞		（検証結果） 進捗状況が概ね良好である （コメント） ・文科省提出年度計画に対して具体的な成果が提示できるよう配慮いただきたい ・地域産業戦略と連携した共同研究を「産学官金」連携による推進体制が整備され、様々な協働の取組や交流会が行われていることは確認できるが、共同研究の実績がやや低調であり、研究成果の発信にも工夫が必要と判断される。
	2-③-1 地域産業戦略と連携した共同研究を「産学官金」連携により推進する体制を平成 29 年度末までに構築し、研究者情報や研究成果情報を広く社会に発信する。 ＜産学官連携本部＞	2-③-1-1	（検証結果） 進捗状況が概ね良好である （コメント） ・ <u>予定された“具体の取組”について、イベント参加 1 回/月、クロスアポイントメント人員 1 名/年以上、など具体的な予定値があげられているものについて、現時点での状況を記載願いたい。</u> ・FUNTEC フォーラムをはじめ、経済同友会や各種工業組合等と多くの交流機会を設けていることが確認できたが、 <u>その成果としての共同研究の件数や成果についても明確にすべきである。</u> ・機福井県工業技術センターとのクロスアポイントが着実に実施されていることが確認できた。
	2-③-2 知財を含む様々な情報を地域でオープンに共有し、多様性を確保して対話を促進することにより、“産”の市場指向力と“学官”の基盤的研究能力、“金”のプロモート能力を融合したニーズ駆動型地域イノベーションを創出、推進する仕組みを構築し、持続的な技術移転や共同研究成果の創出につなげ繋げ、活力ある地域社会の形成に貢献する。 ＜産学官連携本部＞	2-③-2-1 2-③-2-2 2-③-2-3 2-③-2-4	（検証結果） 進捗状況が概ね良好である （コメント） ・2-③-2-1、2-③-2-2、2-③-2-3 について、予定されている目標値を達成しているものもあり、順調に進捗している。 ・金融機関との連携による「産学官金連携コーディネータ制度」が計画通り運用されていることを確認した。

				<p>・ KPI の達成状況を見ると、地域との共同件数 75/90 件程度、共同研究を行う教員数：不明/108 人程度、オープン R&D ファシリティ利用回数 10 回/年 50 回以上であり、年度末に向けて加速が必要と判断される。</p>
	2-④	<p>地域経済の停滞やコミュニティの希薄化、また企業や地域社会のグローバル化等から生ずる諸課題に対し、地域の行政や企業等と連携して、その解決の方向性を探り地域創生の展望を示すことのできる総合的・学際的な研究を推進するとともに、地域創生の核となる人材を育成するための重要なカリキュラムとして、地域と連携した課題解決型能動的学習を拡充する。国際地域学部では平成 28 年度に地域連携協議会を設置しアドバイザーボードとして機能させるとともに、第 3 期中期目標期間を通じて全学的に自治体や企業、学校、諸団体との教育・研究の連携を推進し、連携授業および共同研究の連携先数を増加させる。</p> <p><国際地域学部></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文科省提出年度計画であげている「総合的・学際的な研究の推進」について、どの程度進んでいるのか明らかでない。(進捗不十分) ・文科省提出年度計画であげている「共同研究の割合を 50%程度にする」について、目標値である 50%程度を達成いただきたい。(進捗不十分) ・進捗不十分、保留があることから、「進捗不十分」とした。(進捗不十分) ・国際地域学部による地域企業と連携した PBL 関連科目において、地域の課題解決型能動的学習が実施されていることが確認できるが、地域の非製造業との連携や地域社会のグローバル化などの課題に対応した連携や共同研究の実績はやや不明確である。
	2-④-1	<p>地域経済の停滞やコミュニティの希薄化、また企業や地域社会のグローバル化等から生ずる諸課題に対し、地域の行政や企業等と連携して、その解決の方向性を探り地域創生の展望を示すことのできる総合的・学際的な研究を推進する。</p> <p><国際地域学部></p>	2-④-1-1	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育学部、産学官連携本部では年度計画に沿った取組がなされているが、主体となる国際地域学部で予定している学外との共同研究が実施されていない。本年度後半にはぜひ共同研究に着手いただきたい。(進捗不十分) ・地域企業共同研究件数は前半で目標値の 50%を達成しており、後半も同様な件数を期待したい。(進捗不十分) ・協力会運営委員会において福井経済同友会との意見交換を進め、非製造業企業との連携、共同・受託研究の可能性について協議し、現況や事例調査を実施し、活動方針の策定が進められていることを確認したが、共同研究の内、地域企業の割合が少ないことが懸念される。 ・国際地域学部においては、企業や地域社会のグローバル化等から生ずる諸課題を解決するような共同研究実績を増やす必要があると思われる。
	2-④-2	<p>地域創生の核となる人材を育成するための重要なカリキュラムとして、地域と連携した課題解決型能動的学習を拡充する。</p> <p><国際地域学部></p>	2-④-2-1	<p>(検証結果) 保留</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係する学習が開始されているが、予定された具体の取組である「連携数の増加」、「連携事業等の延数」について、現時点でどのようになっているのか記載願いたい。 ・国際地域学部において、PBL 基礎 A、グローバルアプローチ、地域創生アプローチ等において、地域の課題解決型能動的学習が着実に実施されていることを確認した。

平成 29 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

		<p>2-④-3 国際地域学部では平成 28 年度に地域連携協議会を設置しアドバイザーボードとして機能させる。 <国際地域学部></p>	<p>2-④-3-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見聴取結果による具体的な改善が見えるようにしていきたい。 ・課題探求プロジェクト参加企業を中心とした地域連携協議会が開催され、企業側から意見を収集できたことが確認された。平成 29 年度中に実施予定の第二回協議会では、アドバイザーボードとしての機能を明確にし、意見を着実に反映するよう努めて欲しい。
--	--	---	----------------	---

<検証結果を示す記述>
 ・進捗状況が良好である
 ・進捗状況が概ね良好である（標準）
 ・進捗状況が不十分である
 ・保留

【グローバル化】

中期目標	中期計画／細分化した中期計画	関連する 具体の取組番号	平成 29 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント
<p><中期目標 1> 国際通用性の高い世界に開かれた大学に改革し、世界で活躍できる高度専門職業人を育成する。</p>	<p>1-① 戦略的な海外協定校の開拓および留学生同窓会組織との連携の拡大を推進し、国際交流ネットワークを積極的に拡大して、海外協定校数を第 2 期中期目標期間末と比較して 20%増加させる。 <国際企画会議></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント) ・国際地域学部を中心に海外協定校は良好に増加している。</p>
	<p>1-①-1 戦略的な海外協定校の開拓および留学生同窓会組織との連携の拡大を推進し、国際交流ネットワークを積極的に拡大して、海外協定校数を第 2 期中期目標期間末と比較して 20%増やす。 <国際センター> <全学グローバル人材育成推進委員会></p>	<p>1-①-1-1 (1-①-1-1-1~4) 1-①-1-2 (1-①-1-2-1~3) 1-①-1-3 1-①-1-4</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント) ・具体の予定された取組が順調になされている。 ・協定校数はすでに目標値を達成しており、更なる拡大が十分期待できる。今後、協定に基づく留学生交流数の向上を期待したい。 ・1-①-1-2 について、医学部では協定高を 1 校増やすこととなっているが、いがかか。 ・国際地域学部では新規の海外協定校数を計画以上に増やしている。他の部局ではほぼ計画通りの進捗である。 ・海外協定校数が、第 2 期中期目標期間末(H28.3)大学間協定 36 校、部局間協定 52 校、計 88 校であったが、H29.10.1 現在で 33 ヶ国・地域の計 134 校（大学間協定 68 校、部局間協定 66 校）となっている。</p>
	<p>1-② 学生の国際交流を一層盛んにするために、国際地域学部を中心として、外国人留学生受入れおよび日本人学生の海外派遣プログラムの一層の充実、支援体制の整備、ナンバリングなど留学生に役立つ教務体制の構築、ダブル・ディグリー制等を目指したジョイントプログラム制度の構築と拡充、外国語による情報発信の強化を推進し、全学として受入外国人留学生数と海外派遣日本人学生数を、第 2 期中期目標期間末と比較して、それぞれ 15%増加させる。 <国際企画会議></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・細分化された中期計画の中には進捗に乏しいものもあるが、当該計画の K P I について、すでに基準値を超えており、これは進捗が良好な証左と言える。 ・文科省提出年度計画に「HP 上に協定校の詳細を載せる」となっているが、その実績を示してほしい。 ・受け入れ外国人留学生数は、昨年度に比べて良好に増加している。一方、GGJ が昨年度末で終了したことによる経済的支援の低下のために、派遣日本人学生が減少している。予算が無くても派遣留学生を確保する仕組みづくりが必要である。</p>
	<p>1-②-0 学生の国際交流を一層盛んにするために、国際地域学部を中心とした次の具体の取組により、全学として受入外国人留学生数と海外派遣日本人学生数を、第 2 期中期目標期間末と比較して、それぞれ 15%増やす。 <国際センター></p>	<p>1-②-0-1 (1-②-0-1-1~5) 1-②-0-2 1-②-0-3 1-②-0-4 1-②-0-5</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・それぞれの部局では留学生の受入、送り出しをしているが、<u>全体として目標値に対してどのような実績値になっているか記載願いたい。</u> ・1-②-0-1 について、予定であげられた「基金からの支援枠」はどのようになったのか、明らかでない。 ・1-②-0-1-5 について、本年度中に 36 科目の開講が可能かどうか明らかでない ・1-②-0-2~4 について、予定した取り組みが行われているが、その成果が目で見えるように提示できるよう配慮願いたい。</p>

			<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に比べて、受け入れ外国人留学生数は増加しているが、海外派遣日本人学生数は減少している。GGJが終了したために、経済的・人的支援を向上することは困難であるが、予算が無くても派遣留学生を継続的に送り出すための単位付与のプログラムなどの仕組みづくりが必要である。 ・受入外国人留学生数は、第2期中期目標期間末(H28.3) 175名であったが、H29.10.1現在で208名となっている。海外派遣日本人学生数は、第2期中期目標期間末(H28.3) 206名であったが、H29.10月末現在で135名となっている。今後、春休みのプログラムに100名程度の学生の海外派遣が予定されている。
1-②-1	外国人留学生受入れおよび日本人学生の海外派遣プログラムの一層の充実、支援体制の整備を行う。 ＜国際センター＞	1-②-1-1 (1-②-1-1-1～4)	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回は工学部で行われたが、ツイニング・プログラムは今後どのように全学的に拡大するのか明らかでない。 ・細分化された当該計画の推進方策はツイニング・プログラムだけなのか、他の方策も必要ではないか。 ・昨年度に比べて、受け入れ外国人留学生数は増加しているが、海外派遣日本人学生数は減少している。GGJが終了したために、経済的・人的支援を向上することは困難であるが、予算が無くても派遣留学生を継続的に送り出すための単位付与のプログラムなどの仕組みづくりが必要である。 ・福井大学基金の一部を派遣・受け入れ留学生の奨学金枠として設け、給付額の設定を行っている。
1-②-2	ナンバリングなど留学生に役立つ教務体制の構築を行う。 ＜カリキュラム・授業評価委員会＞	1-②-2-1	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生向けとするとシラバス等の英語化が必要であるが、今後どのようにするのか具体的な方策は策定されているのか。 ・米国型13段階成績評価制度(GPA)、ナンバリング、CAP制、カリキュラムツリーを整備し、国際通用性を有する教育課程を編成している。
1-②-3	ダブル・ディグリー制等を目指したジョイントプログラム制度の構築と拡充を行う。 ＜国際地域学部＞	1-②-3-1	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体の取組内容が記載されていない。本年後半で実際に交渉が開始できるのか危惧される。(進捗不十分) ・早急に目標達成のための具体的な計画を立てる必要がある。(進捗不十分) ・米国型13段階成績評価制度(GPA)、ナンバリング、CAP制、カリキュラムツリーを整備し、国際通用性を有する教育課程を編成している。
1-②-4	外国語による情報発信の強化を推進する。 ＜広報センター＞	1-②-4-1 1-②-4-2	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度計画の沿った取組が順調になされている。

			<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は、外国語化による具体的な成果を示せるようにしてほしい。 ・ 平成 29 年 3 月末に作成した英文パンフレットの次期刊行に向けて、国際課でページ割りを済ませており、今年度も発行予定である。
	<p>1-②-5 学生の国際交流を一層盛んにするために、全学として受入外国人留学生数と海外派遣日本人学生数を、第 2 期中期目標期間末と比較して、それぞれ 15%増やす。 <国際センター></p>	1-②-5-1~16	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の国際交流拡大に向けた取組みがそれぞれの部局で進められている。 ・ 1-②-5-16 が全学の現時点での実績値と思われるが、派遣数は基準値を大幅に超えており（15%以上?）、留学生数も増加している。今後、取組の更なる推進を通して、評価指標の向上が期待される。 ・ 昨年度に比べて、受け入れ外国人留学生数は増加しているが、海外派遣日本人学生数は減少している。GGJ が終了したために、経済的・人的支援を向上することは困難であるが、予算が無くても派遣留学生を継続的に送り出すための単位付与のプログラムなどの仕組みづくりが必要である。 ・ 受入外国人留学生数は、第 2 期中期目標期間末(H28.3) 175 名であったが、H29.10.1 現在で 208 名となっている。海外派遣日本人学生数は、第 2 期中期目標期間末(H28.3) 206 名であったが、H29.10 月末現在で 135 名となっている。今後、春休みのプログラムに 100 名程度の学生の海外派遣が予定されている。
	<p>1-③ 教職員の国際通用性を高めるために、年俸制やクロス・アポイントメント制度などの柔軟な人事制度を活用した教員採用、語学力を重視した職員採用、現職の教職員のグローバル活動の活発化を推進し、教員のグローバル化活動数（サバティカル制度等を活用した海外機関での研究活動、海外機関へのベンチマーキング視察、国際会議での発表など）を第 2 期中期目標期間末と比較して 20%増加させる。 <国際企画会議></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員のグローバル活動数の把握のために総合データベースに組み込むための準備は行っているが、本年度前期の活動数が把握できていないため、進捗が把握できていない。作業を急ぐ必要がある。（進捗不十分） ・ 文科省提出年度計画では、「教員の意識を高める制度を活用して」、「強化するグローバル化活動を定めて重点的に支援」があげられているが、其々に相当する取組・成果はいかがか。
	<p>1-③-1 教職員の国際通用性を高めるために、年俸制やクロス・アポイントメント制度などの柔軟な人事制度を活用した教員採用、語学力を重視した職員採用を行う。 <人事会議></p>	<p>1-③-1-1 1-③-1-2 (1-③-1-2-1~5)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの部局では、当該計画の趣旨に沿った教員の採用がなされている。 ・ <u>この採用数が多いのか、必ずしも十分でないか、それを示す客観的な指標（他大学との比較、従前の採用状況との比較など）の設定をお考えいただきたい。</u> ・ 教員採用の際には、積極的に国際公募を行い、その結果、外国人の教員を雇用している。
	<p>1-③-2 現職の教職員のグローバル活動の活発化を推進し、教員のグローバル化活動数（サバティカル制度等を活用した海外機関での研究活動、海外機関へのベンチマーキング視察、国際会議での発表など）を第 2 期中期目標期間末と比較して 20%増やす。 <国際企画会議></p>	<p>1-③-2-1 (1-③-2-1-1~5) 1-③-2-2 (1-③-2-2-1~4) 1-③-2-3</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1-③-2-1 について、各部局で取組を進めるとしているが、殆どの部局の進捗率は 0%となっている。このため、各部局での取り組みの実施が望まれる。

		(1-③-2-3-1~4)	<ul style="list-style-type: none"> 1-③-2-2 について、総合DBによる集計が予定されており、<u>実績値を記載願いたい</u>。なお、KPI としては第2期末との比較となっており、第2期末のデータも総合DBから集計できるのか。 1-③-2-3 について、教員1名の派遣実績があがっている（昨年度からの継続、本年度新規はない）。しかしながら、具体の予定された取組では「制度改革を実施する」としているが、対応する取組はなされているのか。また、最終的に何名が派遣出来たら目標達成とするのか検討いただきたい。 教員のグローバル活動数の把握のために総合データベースに組み込むための準備は行っているが、本年度前期の活動数が把握できていないため、進捗が把握できていない。作業を急ぐ必要がある。 グローバル化活動の定義づけは、H28 年度に完了し、H27 及び H28 年度の活動数については、データ収集をしている。H29 年度以降は、総合 DB に移行する予定であり、関係部署と協議を行っているところである。
	1-④ 単独の大学では提供困難であった学部から大学院までの一貫した原子力人材育成プログラムを、県内原子力関連機関および中京・関西圏にある大学からの講師派遣などの相互協力により平成 31 年度までに構築し、さらに大学院では、留学生および外国人研修生にも対応した、英語で提供する原子力人材育成国際プログラムを確立し、本学の重点分野である原子力安全工学分野において、世界で活躍する高度専門職業人を育成する。 ＜附属国際原子力工学研究所＞		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p>
	1-④-1 単独の大学では提供困難であった学部から大学院までの一貫した原子力人材育成プログラムを、県内原子力関連機関および中京・関西圏にある大学からの講師派遣などの相互協力により平成 31 年度までに構築する。 ＜附属国際原子力工学研究所＞	1-④-1-1	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体の予定された取組に沿って、計画が進捗している。
	1-④-2 大学院では、留学生および外国人研修生にも対応した、英語で提供する原子力人材育成国際プログラムを確立し、本学の重点分野である原子力安全工学分野において、世界で活躍する高度専門職業人を育成する。 ＜附属国際原子力工学研究所＞	1-④-2-1	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価指標として、派遣人数、受入外国人数を設定しているが、目標値の設定を検討いただきたい。
<中期目標 2> 地域のグローバル化を牽引する核となる大学になる。	2-① 教育委員会との連携により県内の小中高の一貫した英語教育の改善、スーパーグローバルハイスクール事業への協力・グローバルサイエンスキャンパス事業の実施、留学生の地域交流活動数の増加（第2期中期目標期間末と比較して 20%増）、さらに、グローバル化社会における学び直しの場の創出と提供を実施して、地域の学校およびコミュニティのグローバル化に貢献する。 ＜国際企画会議＞		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文科省提出年度計画で記載された取組について、<u>定量的な成果が提示できるようにしていただきたい。</u>
	2-①-1 教育委員会との連携により県内の小中高の一貫した英語教育の改善、スーパーグローバルハイスクール事業への協力・グローバルサイエンスキャンパス事業を実施する。 ＜国際センター＞ ＜ライフサイエンスイノベーションセンター＞	2-①-1-1 2-①-1-2 2-①-1-3	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2-①-1-1 について、順調に取組が推進されている。 ・2-①-1-2 について、<u>取組数・参加者数、協力者数など、評価指標を具体的に記載願いたい。</u> ・2-①-1-3 について、<u>SGHプログラムの支援実績（支援数）を記載願いたい。</u> ・平成 29 年度 GSC のインテンシブコースは、予定数 55 名のところ、合格基準を満たした 69 名(高校 1 年生 53 名、高校 2 年生 16 名)が参加している。アド

			<p>バンストコースには、14 名が 5 つの研究室(ラボ)に配属され、先端的生命医科学研究を行っている。参加している教員は 13 名(指導者とメンター)である。</p>
	<p>2-①-2 留学生の地域交流活動数の増加（第 2 期中期目標期間末と比較して 20%増） ＜国際センター＞</p>	2-①-2-1	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント数、参加者数は昨年度実績の概ね半数に及んでおり、本年度後半に取組をさらに進め、K P I の向上を図っていただきたい。 ・<u>20%増達成に向けて、現状はどのようなレベルに達しているかを記載願いたい。</u> ・従来、福井県と福井市の 2 団体を中心に進められてきた国際地域交流活動に、更に複数の周辺市町の公立及び民間交流団体を加え交流地域の範囲拡大に努めており、それに伴い留学生を派遣する地域交流活動の種類も増えてきている。 ・H27 及び H28 年度の活動数については、データ収集をしている。H29 年度以降は、総合 DB に移行する予定であり、関係部署と協議を行っているところである。
	<p>2-①-3 グローバル化社会における学び直しの場の創出と提供を実施して、地域の学校およびコミュニティのグローバル化に貢献する。 ＜地域貢献推進センター＞</p>	<p>2-①-3-1 2-①-3-2 2-①-3-3 (2-①-3-3-1～4)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画の主要目的にも相当する、具体の予定された取組 2-①-3-1 は実施されておらず、早急な実施が望まれる。このために、進捗を不十分とした。(進捗不十分) ・2-①-3-3 について、異文化交流の機会は設定できたのか。また、英語科目に対する受講者の評価はいかがか。(進捗不十分) ・<u>関係者の満足度の向上など、グローバル化に寄与した具体的な成果が示せるよう配慮いただきたい。</u>(進捗不十分) ・2-①-3-1 「COC 事業等と連携して、国際通用性を高めるための 社会人の学び直しの公開講座カリキュラムを開始する。」については進捗がない。この点について、方針を決める必要がある。
	<p>2-② 海外拠点を持つ地元企業と連携した日本人学生の東南アジア・東アジア諸国へのインターンシップや、外国人留学生と地元企業とを早期にマッチングさせるなど留学生を就職や奨学金の面で支援する人材育成プログラムの構築と実施を推進して、グローバル化の進む地元産業の一層の発展に貢献する。 ＜国際企画会議＞</p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細分化された計画 2-②-2 について、「留学生を支援する人材育成プログラムの構築と実施」することとしているが、本年度実施の取組がその達成に直接寄与するものか明らかでない。(進捗不十分) ・<u>「地元企業との連携」がキーワードになっており、その点からの実績を記載願いたい。</u> ・文科省提出年度計画で示された「開始する二つのプログラム」のうちの一つは 2-②-1-2 のものなのか。誇値のプログラムは本年後半に開始されるのか。
	<p>2-②-1 海外拠点を持つ地元企業と連携した日本人学生の東南アジア・東アジア諸国へのインターンシップの構築と実施を推進して、グローバル化の進む地元産業の一層の発展に貢献する。</p>	<p>2-②-1-1 2-②-1-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>

		<p><産学官連携本部></p>		<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度計画に沿って、学生の派遣がなされているが、<u>最終的に何名の派遣を予定しているのか（目標値に相当するが）を記載願いたい。</u> ・2-②-1-1 について、「共同研究体制を整備する」としているが、具体的な整備が進んでいるのか。 ・<u>地元企業との連携としての実績を記載願いたい。</u> ・タイ王国の College of Asian Scholars と現地企業と本学の間で協定を結び、2017 年 10 月より 2 名の工学研究科大学院生をインターンシップに派遣した。
		<p>2-②-2 外国人留学生と地元企業とを早期にマッチングさせるなど留学生を就職や奨学金の面で支援する人材育成プログラムの構築と実施を推進して、グローバル化の進む地元産業の一層の発展に貢献する。 <国際センター></p>	<p>2-②-2-1 (2-②-2-1-1~4) 2-②-2-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <hr/> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2-②-2-1 について、「さくらサイエンスプラン等の公募事業を継続的に獲得する」とされているが、「新規申請無し」であり継続的な獲得がなされるのか明らかでない。(進捗不十分) ・2-②-2-1 について、細分化された当該計画達成にふさわしい具体の取組か、その意義が不明確である:ここで挙げられている「人材育成プログラムの構築と実施」に寄与する取組となっているのか明らかでない。(進捗不十分) ・2-②-2-2 について、本年度の取組は評価指標に直接寄与するものなのか、また評価指標に係る取組は今後なされるのか。(進捗不十分)

<検証結果を示す記述>
 ・進捗状況が良好である
 ・進捗状況が概ね良好である（標準）
 ・進捗状況が不十分である
 ・保留

【業務運営】

中期目標	中期計画	関連する 具体の取組番号	平成 29 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント
II 業務運営の改善及び効率化に関する目標			
1 組織運営の改善に関する目標			
<中期目標 II-①> 本学の諸機能を強化するため、ガバナンス機能の強化、人事・給与制度の弾力化、学内資源の戦略的配分等を推進する。	II-①-1 学長のリーダーシップのもと、本学の教育・研究・医療・社会貢献等の機能を強化できるようガバナンス体制の点検、見直しを継続的に行うとともに、IR 体制を強化し、財務データの分析等により、戦略的・効果的な資源配分を行う。 <経営戦略課>	II-①-1-1 II-①-1-2 II-①-1-3	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・具体的に、ここまでやれば当該年度計画が達成できたかを判断するのは難しいものではあるが、具体の予定された取組について様々な施策がなされている。 ・評価指標である重点配分について、ここで挙げてあるのは重点研究分野への配分に相当している（目標値を達成しているが）。しかしながら、文科省提出年度計画では「大学改革の推進や方策を実行できる予算」となっており、その意図するところは重点研究への配分だけに限らないのではないのか、その点、今回の配分はその一部をカバーしているに過ぎないのではないのか。 ・II-①-1-1 について、「ガバナンス機能の総点検」することになっているが、実際に総点検がなされたのか明らかでない。 ・II-①-1-1 について、進捗率 50%となっているが、最終的な達成目標をどのように想定し、今後、具体的にどのような取組予定があるのか不明。 ・II-①-1-2 について、内容的には、全学の評価指標の設定やその活用に注目すべきではないのか。 ・他大学調査の後、ある程度のスケジュール感が見えてくると思いますので、 <u>年度末進捗確認の際にお示しください。</u> ・II-①-1-3 の分析方法の仕組み作りについては、進捗率が 50%と言えるのか。遅れているのではないのか。
	II-①-2 女性、若手、外国人・国際経験のある教員を積極的に登用し、教育研究の活性化を図る。また、構築した年俸制適用教員に係る業績評価等について検証するとともに、年俸制およびクロス・アポイントメント制度などの混合給与を促進する。なお、若手教員については、引き続き若手教員の雇用に関する計画に基づき、雇用拡大を推進し、若手教員の割合を平成 32 年度末までに医学部においては 16%以上、工学研究科においては 14%以上にそれぞれ向上させる。また、女性の管理職等の割合を平成 33 年 4 月 1 日までに役員 11.1%に、管理職 10.9%以上に向上させる。 <人事労務課>	II-①-2-1 II-①-2-2 II-①-2-3	(検証結果) 進捗状況が良好である (コメント) ・II-①-2-2、II-①-2-3 について、すでに目標値に達しており、進捗は良好である。今後は、この数値を維持し、更なる向上を目指してほしい。なお、若手教員の定義を確認してほしい（科研費申請に準じる？）。 ・II-①-2-1 について、他機関の勤務経験を有する教員数の増加をあげているが、 <u>現状はどうか、どのように向上しているのか記載願いたい。</u> このため、進捗率は 100%とはいえない。 ・文科省提出年度計画に記載されている「年俸制教員 69 名」は達成できているのか記載願いたい。 ・年度計画における年俸制適用教員目標の 69 名の状況はどうか。 ・ <u>進捗率が 100%となっていますので、他機関の勤務経験を有する教員数の増加について、増加したことを客観的に示す必要があります。</u>

			<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>II-①-2-1</u> については、平成 29 年度の計画の「<u>他機関の勤務経験を有する教員数の増加を目指す</u>」に対する進捗状況も記載いただきたい。
2 教育研究組織の見直しに関する目標			
<p><中期目標 II-②> 本学の機能強化に繋がる教育研究組織の見直しを全学的視点から戦略的に推進する。</p>	<p>II-②-1 全学の機能強化や各分野のミッション等を踏まえ、教育研究等組織の見直しを行う。このうち、学部においては、全学的な視点から、第 3 期中期目標期間当初に地域創生に資する国際地域学部を創設する。大学院においては、平成 32 年度末までに教育学研究科を教職大学院に一本化し、実践型教員養成機能への質的転換を推進するとともに、工学研究科博士前期課程を改組し、学部一修士一貫教育を意識した教育課程を構築する。</p> <p><経営戦略課></p>	<p>II-②-1-1 II-②-1-2 II-②-1-3 II-②-1-4 II-②-1-5 II-②-1-6</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体の予定された取組が順調に進められており、連合大学院の設置など、成果があがっている。 ・ II-②-1-6 について、内部質保証システムとも関連するものであり、本年後半には方向性を定めてほしい。 ・ 当該計画はもちろん組織の見直しであるが、見直した組織でどのような成果があがれば、見直しが有効であったとするのか、具体的な成果を検討いただきたい。 ・ <u>組織改組による機能強化の効果にも言及願いたい。</u> ・ <u>工学研究科博士前期課程の改組について、検討内容が不明瞭であるので、年度末進捗確認の際にお示しください。</u> ・ <u>評価制度見直しについての検討内容が不明瞭です。課題を認識しているのであれば年度末進捗確認の際に記述ください。</u>
3 事務等の効率化・合理化に関する目標			
<p><中期目標 II-③> 事務局改革と人づくりを進め、事務局機能を強化する。</p>	<p>II-③-1 第 2 期中期目標期間に導入した経営品質活動の取組みについて、平成 28 年度に検証、31 年度までに改善・改革を実施し、自主的・自律的な改善・改革活動に継続的に取り組む事務局づくりを推進する。</p> <p><総務課></p>	<p>II-③-1-1</p>	<p>(検証結果) 保留</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文科省提出年度計画に記載した「電子事務局の推進」に係る様々な施策が実施されており、その進捗は良好である。他方、「事務組織・分掌の見直し」に係る具体の取組はなされているのか。特に、後者は PDCLA サイクル導入の成果ともなるものであり、このあたりの推進をお願いしたい。その場合、どの点が課題であり、それに対応するように事務組織・分掌の見直しを具体的にを行ったかを明確にしていきたい。 ・ 記載内容は、経営品質活動の検証結果に基づく改善・改革状況についてのもので理解して良いか。 ・ 具体の取組 III-②-1-2 ペーパーレス化による削減額 1、652 千円との整合性が取れていません。 ・ <u>28 年度に超過勤務申請機能と出勤管理機能は整備されているので、今後何を導入していくのかを、年度末進捗確認の際にお示しください。</u> ・ 進捗状況に記載の内容が、平成 29 年度の計画である「PDCLA サイクルの仕組みを導入し、事務局改革に着手」することに対応するのかが明確には分からない。個別の取組を並べただけにも見えてしまうため、計画との対応を説明いただきたい。

	<p>II-③-2 事務局職員の職務能力の開発・向上に引き続き取り組むとともに、高度な専門性を有する多様な人材の確保やグローバル化に対応できる職員を育成するために、隔年毎に、職階別研修（係長、中堅職員、契約・パート）と職務における専門能力の向上のためのスキル別研修を実施する。 <人事労務課></p>	<p>II-③-2-1 II-③-2-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両取組みとも進捗率は 20%であり、進捗不十分とした。(進捗不十分) ・II-③-2-1 について、本年度後半に過半の研修等が予定されており、それらの順当な実施が望まれる。これに関連し、難しいとは思いますが、研修を受けて職員の職務能力が向上したことを示すことができる具体的な成果を検討いただきたい。(進捗不十分) ・II-③-2-2 について、成果として「職員のレベルアップ、業務の効率化が図られる」があげられているが、それを示す具体的なエビデンスを検討いただきたい。また、<u>情報交換の概要など、成果を具体的に記載願いたい。</u>(進捗不十分) ・専門能力向上のためのスキル別研修が実施されていないようであり、進捗率も低い。(進捗不十分) ・実施されていない研修もありますので、<u>それらの検証や、どういう風に改善を図ったのかを、年度末進捗確認の際にお示し願います。</u> ・既に完了している「新任教員研修」及び「新規採用職員研修」については、<u>受講者及び研修講師へのアンケート並びに点検及び検証を実施したのかどうか示してほしい。実施したのであればその結果も示してほしい。</u>
<p>III 財務内容の改善に関する目標</p>			
<p>1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標</p>			
<p><中期目標III-①> 自己収入を増加させ安定的な大学運営を推進する。</p>	<p>III-①-1 教育研究診療活動等の充実・強化のため、必要な組織・体制の見直しを行い、自己収入を増加させて安定的な大学運営を推進する。特に、多様なステークホルダーを募金対象とする「福井大学基金」については、募金活動に関する取組みの強化を図り、寄附金を着実に増加させる。 <研究推進課></p>	<p>III-①-1-1 III-①-1-2 III-①-1-3</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体の予定された取組について、各部署で順調に施策がなされている。其々自己収入の増加に繋がる成果があがっており、進捗は良好とした。 ・III-①-1-2 について、「毎年度の目標達成」と記載されているが、<u>具体的な目標の値を示し、それを達成できているのか具体的に記載願いたい。</u> ・文科省提出年度計画において、「戦略の策定」があげられているが、具体的な戦略が記載できるよう検討いただきたい。さらに、III-①-1-2 について、「対象者別に」となっているが、対応する取組はなされているのか。 ・<u>現在欠員中の特命 URA の補充時期や戦略及び活動内容の見直し状況、育成プログラムへ参加した後の検証と見直しについて、不明瞭なため、年度末進捗確認の際にお示しください。</u> ・III-①-1-1 について、平成 29 年度の年度計画では「従事者数の妥当性評価」とあるため、妥当性の評価についても記載をいただきたい。また、「研究支援専門人材の研修・育成プログラムへの参加実績の検証と見直し」についても記載をいただきたい。 ・III-①-1-2 について、概ね順調と思われるが、「高額寄附企業への顕彰として～冊子『保護者の皆様へ』に～紹介記事を掲載し、好評を得た」の部分について

			<p>ては、この記載だけではどのような状況か分からない。<u>誰から好評を得たのか、また好評を得たと判断できる根拠は何か、また、それが寄附金の獲得増に結びつくものなのかどうかも記載いただきたい。</u></p> <p>・Ⅲ-①-1-3 については「進捗状況が良好である」と思われる。</p>
<p>2 経費の抑制に関する目標</p>			
<p><中期目標Ⅲ-②> 効率的な法人運営を行うため、人件費改革や管理的経費等の削減により経費の抑制を推進する。</p>	<p>Ⅲ-②-1 IR 機能を強化して、財務情報を戦略的に分析し、経費を抑制するとともに経費抑制のための業務改善に取り組む。また、エネルギー経費や施設・設備の更新経費抑制に向けた戦略を策定し、実施する。 <財務課></p>	<p>Ⅲ-②-1-1 Ⅲ-②-1-2 Ⅲ-②-1-3 Ⅲ-②-1-4</p>	<p>(検証結果) 保留</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Ⅲ-②-1-2、Ⅲ-②-1-3、Ⅲ-②-1-4 について、具体の予定された取組が各部署で順調に進められており、目標値を超えるものがあるなど、具体的な経費削減が得られている。 ・Ⅲ-②-1-1 について、文科省提出年度計画では「管理的経費の予算削減の前年度比△1.1%」となっているが、これは達成できるのか。<u>相当する削減額を記載願いたい。</u> ・それぞれ取組が進められているが、Ⅲ-②-1-1 に係る人件費改革の状況が確認できない、進捗率 30% はどのような状況になっているのか示されたい。 ・現在、「総人件費方針」の見直しに取りかかっているのか否かが分かりませんので、年度末進捗確認の際にお示しください。 ・ESCO 事業による省エネ化について、進捗率を入力ください。 ・具体の取組Ⅱ-③-1-1 ペーパーレスによる削減 695 千円との整合性が取れていません。 ・後発医薬品数量シェア 70%以上と標記していますが、その根拠をお示し願います。 ・Ⅲ-②-1-1 について、少なくとも平成 29 年度前期に見直しの必要があったのかどうかを記載していただきたい。進捗率の 30%の根拠も不明である。見直しを行わなかったとしても、見直す必要が無かったのであれば 50%にすることも妥当と思われる。見直す必要があったのに見直しを行わなかったとすれば 0%とすることが適切と思われる。「30%」という数値をどのように積み上げたのかが分からないため、説明をいただきたい。 ・Ⅲ-②-1-2 について、財務分析方法の仕組み作りについては、かなり遅れているのではないか。「管理的経費削減に向けた取組状況」は順調に進んでいるようだが、それにしても全体で進捗率 50%というのは高すぎるのではないか。 ・Ⅲ-②-1-3 について、進捗率が 0%とのことだが、そこまで進捗率が低い理由が記載からはうかがえない。なぜ 0%なのか記載をいただきたい。 ・Ⅲ-②-1-4 については「進捗状況が良好である」と思われる。

3 事務等の効率化・合理化に関する目標			
<p><中期目標Ⅲ-③> 教育研究等の質の向上等のため、流動資産および固定資産の有効活用を推進する。</p>	<p>Ⅲ-③-1 資金（運営費交付金、授業料等自己収入、産学連携等研究費、受託事業費、寄附金における資金）の運用計画に基づき、資金を元本割れがないよう安全かつより利息の高い運用商品や金融機関を選択し、運用する。 <財務課></p>	Ⅲ-③-1-1	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体の予定された取組がなされている。 ・ 運用額が多額でありながら利息が非常にわずかである一方で、附属病院は多額の借入を行っている。借入利率は預入利率よりも確実に高いため、運用に回すよりも借入額を減らして支払利息を抑えることで、運用したときに得られる受取利息より大きいリターンを得るという方法も検討の余地があるのではないかと。
	<p>Ⅲ-③-2 全学的に施設の有効な活用を促進し、計画的な維持管理の継続的な点検・見直しを行い、教育・研究の環境改善等を行うとともに、大学が保有する固定資産（施設等）を教育研究に支障のない範囲で学外者に有償で貸付ける等の有効活用を行い、自己収入の増加に繋げる。 <施設企画課> <財務課></p>	Ⅲ-③-2-1 Ⅲ-③-2-2	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体の予定された取組が順調になされ、省エネによる光熱費削減、自己収入の増加が得られる等、成果があがっている。 ・ Ⅲ-③-2-1 について、省エネ改修ではあるが、関係者の好評等の成果を示せるよう検討いただきたい。 ・ Ⅲ-③-2-2 について、文科省提出年度計画では「前年度以上の自己収入増を目標」としているが、<u>現状ではどの程度達成できているのか具体的に記載願いたい。</u> ・ 全体的には良好と考えられるが、Ⅲ-③-2-1 について、年度計画に「利用実態を把握し、スペースの有効活用を図る」とあるが、今年度は、実態把握までを予定されているということか。 ・ スペースチャージの取組について、進捗率を入力ください。 ・ 28 年度実績額の記載がありますが、今年度はどれくらいの水準を目指しているのでしょうか。 ・ <u>ふくい産学官共同拠点の利用料実績に関し、昨年度と比較し増加傾向であるのか否かを記述ください。</u> ・ Ⅲ-③-2-1 について、進捗率が 0%とのことだが、そこまで進捗率が低い理由が記載からはうかがえない。なぜ 0%なのか記載をいただきたい。また、<u>削減額が平成 28 年度実績のため、平成 29 年度の数値を記載いただきたい。</u> ・ Ⅲ-③-2-2 のうち研究推進課分について、平成 28 年度に記載している数値と異なる集計方法で数値が記載されている。経年変化を確認しやすいように、今後は可能な限り毎年度同じ基準で集計した数値を計上していただきたい。

IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標			
1 評価の充実に係る目標			
<p><中期目標IV-①> 教育研究等活動の活性化に資する適切な評価制度の構築を推進する。</p>	<p>IV-①-1 教育研究等活動の更なる活性化や大学運営の改善に資するため、平成 28 年度末までに全学的に IR 機能を整備し、業務の分析・評価体制を充実・強化する。さらに、分析結果を基にした資源配分を行う。 <経営戦略課></p>	<p>IV-①-1-1 IV-①-1-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・IV-①-1-2 について、中期計画では「分析結果を基にした予算配分を行う」としている。本年度は、財務状況を分析する仕組みの構築が進められているが、具体的な予算配分に活用できるものとして、予算配分などでの実績を示せるようにしていただきたい。 ・<u>全学的データの収集法の検討について、記述が不十分です。</u> ・IV-①-1-2 の財務 IR については、進捗率が 50%と言えるのか。遅れているのではないか。</p>
	<p>IV-①-2 教育研究等の活性化に資するよう教職員の評価制度に基づく評価結果や優れた業績を人事評価上の処遇へ反映させるなど、一層の適正化を進める。 <人事労務課></p>	<p>IV-①-2-1 IV-①-2-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・人事評価への反映を含めて、教員評価が有効であったとするエビデンス（たとえば、教員からの好評）を収集するようお願いしたい。 ・職務評価を実施しているが、改善したことによる好評を示すことができないか。 ・中期計画で挙げた「一層の適正化」が達成できたとするエビデンスを検討願いたい。 ・IV-①-2-2 について、年度計画に「各部局における教員以外の職務評価制度に・・・」とあるが、取組状況としては事務局が挙げられているが、これは事務局だけという理解で良いのか確認したい。 ・教員評価結果を人事評価へ適切に反映させることの検討が成されているのか否かが不明瞭です。 ・<u>職務評価制度の検証が行われたのか否かが分かりませんので、年度末進捗確認の際にお示しください。</u> ・IV-①-2-2 について、平成 29 年度の計画に「職務評価制度を検証し」とある。平成 29 年度については、まだ検証を行っていないようだが、その段階で進捗率を 80%とするのは、高すぎるのではないか。</p>
2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標			
<p><中期目標IV-②> 国立大学法人として、教育研究等の成果や大学運営の状況を積極的に社会に発信する。</p>	<p>IV-②-1 本学の教育研究等活動の状況や地域における役割等について、大学ポータル等を活用し積極的に社会に情報発信するとともに、外国語によるホームページの充実等により国際的な広報活動を展開する。 <広報室></p>	<p>IV-②-1-1 IV-②-1-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・具体の予定された取組が順調になされている。 ・IV-②-1-2 について、広報室を中心に精力的に取組がなされている。具体の予定された取組では大学WEB に関する取組が予定されているが、該当する取組がなされたのか明らかでない。文科省提出年度計画でも「中国語によるH</p>

			<p>Pの開設」があげられている。これに関連し、国際的な広報活動の取組はなされているのか明らかでない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>IV-②-1-2</u> について、<u>これら取組の成果のエビデンスとなるリリース件数など評価指標を示し、向上状況を記載願いたい。</u> ・年度計画に挙げられている「中国語によるホームページの開設」の状況が確認出来ない。 ・<u>キャンパスイルミネーションに関し、職員のきめ細かなサポートと信頼関係が増していること具体例をお示しください。</u> ・様々な広報活動の取組はしっかり記述されていますが、「多言語の翻訳ページ」「英語版の各学部等紹介」「WEB サイトの管理・運営の整理」についての進捗が読み取れませんでした。 ・IV-②-1-1 で「来年より英語版の開発を進めているとの連絡を受け、英語版への参加について検討を行っている」とあるが、中期計画では「大学ポータル等を活用し～国際的な広報活動を展開する」とある。英語版大学ポータルへは検討を行うまでもなく参加すべきものではないのか。 ・IV-②-1-2 では、平成 29 年度の計画にある「大学 WEB サイト英語版を基に、多言語の翻訳ページの作成について検討する。」「大学 WEB サイト英語版の各学部紹介等の制作について検討する。」について記載がない。それにもかかわらず進捗状況が 100%というのは過大ではないか。中期計画にも「国際的な広報活動を展開する」とある一方で、進捗状況で国際的広報活動に関する記載は「欧文封筒」だけであり、「国際的な広報活動」に限定すれば取組はむしろ遅れているのではないか。また、<u>評価指標の「リリース件数」、「記者説明会の実施件数」、「大学 WEB サイト（日・英）のアクセス件数」についても毎回記載してほしい。</u>
<p>V その他業務運営に関する重要目標</p>			
<p>1 施設設備の整備・活用等に関する目標</p>			
<p><中期目標V-①> 施設設備面のマネジメントを強化し、教育研究等環境の改善充実を推進する。</p>	<p>V-①-1 教育研究等の環境改善を推進するため、キャンパスマスタープランについて、随時学内委員会で検討を行い、必要に応じ修正する。既存施設の状況については、施設整備計画を基に、毎年度点検・見直しを行うことで、省エネルギーを含めた維持管理および施設整備を推進する。また、既存施設の有効利用を進めるため、学長のリーダーシップ等により、スペースチャージ制度によるスペースの確保と再配分を一層推進し、教育研究活動の活性化を図る。 <施設企画課></p>	<p>V-①-1-1 V-①-1-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2取組がいずれも進捗状況が 0%と自己評価している以上、「不十分である」とせざるを得ないが、なぜ 0%か分からない。過小ではないか。また、<u>削減額が平成 28 年度実績のため、平成 29 年度の数値を記載いただきたい。</u>（進捗不十分） ・V-①-1-1 について、キャンパスマスタープラン 2018 の策定が進められているが、その際、何が具現化され、何が課題として残ったのかなど、プラン 2012 の総括をお願いした。 ・V-①-1-2 について、Ⅲ-③-2-1 およびⅢ-②-1-3 と同じ内容の具体的取組・成果が記載されている。もちろん、これらは連携していることが十分理解できるが、夫々の中期計画は異なる目標を達成する取組であることを意識した記載としてほしい。

			<ul style="list-style-type: none"> ・何れも進捗率が0%になっているが、これは、例えば、V-①-1-1 について、2018 策定に向け、そのような状態にあると判断して良いのか。また、Ⅲ-③-2-1 にも記載したが、年度計画に「利用実態を把握し、スペースの有効活用を図る」とあるが、今年度は、実態把握までを予定されているということか。 ・進捗率を入力ください。 ・<u>キャンパスマスタープラン 2018 の策定について、スケジュール感（今年度に完成するのか否か）を記述いただいた方がよいか</u>と思います。 ・28 年度実績額の記載がありますが、今年度はどれくらいの水準を目指しているのでしょうか。
2 安全管理に関する目標			
<p><中期目標V-②> 学生および教職員の安全管理を強化するための取組みを推進する。</p>	<p>V-②-1 学生の修学環境について、定期的な点検を行い必要な改善を実施するとともに、教職員相互による安全管理に関する自主的な点検・改善を推進し、教職員の安全管理に関する意識向上を図ることにより、法定の巡回点検による改善点の指摘事項を減少させる。</p> <p><人事労務課> <教務課></p>	<p>V-②-1-1 V-②-1-2 V-②-1-3 V-②-1-4</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体の予定された取組が順調になされている。 ・<u>「改善点の指摘事項の減少」がこの計画でのKPIとなっているが、その数値を記載願いたい。</u> ・V-②-1-1 について、教職員の意識が向上したことを示すエビデンス（意識調査結果の向上など）の収集を検討していただきたい。また、講習会等の開催回数、参加人数の把握もお願いしたい。 ・V-②-1-2、V-②-1-3、V-②-1-4 について、「学生満足度の高い」をうたっており、満足度の向上がKPIとなるので、その点を検討いただきたい。 ・文科省提出年度計画に記載された「意識調査結果を反映した研修等の内容」となっているが、具体的に反映されたものとなっているか確認願いたい。 ・<u>講義室の突発的な故障等の対応について、具体例を記述ください。</u> ・課外活動施設や危機管理体制等の点検、学生生活アンケート要望に対する対策について、【成果】に記述した内容は【具体の取組】に記述する内容でありますので、年度末進捗確認の際に改めて【成果】を整理ください。 ・V-②-1-4 について、【具体の取組】は実際に行ったことを記載しているのであれば、具体的に記載してほしい。例えば「～できることから対策を継続して行う」とあるが、どのような対策を継続して行っているのか記載していただきたい。もし【具体の取組】は「姿勢」を示すもので、実際に行ったことを【成果】に記載しているとすると、記載が不十分な印象を受ける（避難訓練は、危機管理体制の点検に該当するのか。「ゴミ箱等へのタバコのポイ捨てについて対策中」とあるが対策かなりの時間がかかっているのか。「対策を検討中」ということか。他にも何か行っていないのか。他に取組が無い場合、それは安全に関する要望がなかったからか。もしくは要望があるがまだ対応していないのか。などが気になる。）。<u>少なくとも平成 29 年度の計画に記載した事項にしっかりと取り組んでいるのかどうか、第三者にもわかるように記載を願いたい。</u>

3 法令遵守等に関する目標			
<p><中期目標V-③> 法令遵守等を徹底するとともに、危機管理機能の強化を推進する。</p>	<p>V-③-1 監事の権限強化に伴い、サポート体制を充実させる。さらに、法令遵守（コンプライアンス）並びに公的研究費の不正使用防止のための教育や研究活動の不正行為防止のための研究倫理教育を着実に進め、教職員の受講状況や理解度を把握し、教育の受講状況を部局ごとに公表するなど、組織的に浸透させる。また、危機管理体制の強化のため、経営上のリスクマネジメントの観点から、定期的・継続的な点検を行う。</p> <p><監査室> <研究推進課></p>	<p>V-③-1-1 V-③-1-2 V-③-1-3</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体の予定された取組が順調になされている。 ・ <u>「教職員の受講状況や理解度を把握し、教育の受講状況を部局ごとに公表する」について、具体的な状況を記載願いたい。</u> ・ V-③-1-2、V-③-1-3 について、<u>教職員の該当する意識がどの程度向上したかがK P Iであり、関連する調査の実施と調査結果の記載をお願いしたい。</u> ・ 内部統制システムの実質化について、【成果】に記述した内容は【具体の取組】に記述する内容でありますので、年度末進捗確認の際に改めて【成果】を整理ください。 ・ <u>V-③-1-1 について、平成 29 年度の計画にある「監事の権限強化によりどのような業務が増えたのか～洗い出す」についても記載いただきたい。</u>
	<p>V-③-2 情報セキュリティの維持と強化に向け、利用者の意識向上と情報セキュリティ体制の充実強化を行う。</p> <p><学術情報課></p>	<p>V-③-2-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進捗状況が 0%と自己評価している以上、「不十分である」とせざるを得ないが、なぜ 0%か分からない。過小ではないか。なお、<u>平成 29 年度の計画にある「必要なセキュリティ対策において優先順位を定める」ことの進捗状況も記載をいただきたい。(進捗不十分)</u> ・ 「利用者の意識向上度合」が一つのK P Iであり、その継続的調査を検討いただきたい。 ・ 実施される関係セミナー等への参加状況など、継続的に把握願いたい。 ・ 「検討された施策」の経緯が読み取れませんでした。